

# 「住みたいまち」へ進むか？

## 総額九億 港区予算を区民目線でチェック

港区の平成二十七年当初予算が決まりました。総額は約九億。①区民主体のまちづくり②安全・安心・快適なまちづくり③健やかいきいきと暮らせるまちづくり④子育て世代が魅力を感じるまちづくり⑤訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり⑥自律した自治体型の区政運営―を柱に、具体的には「築港活性化」「区画整理記念事業」「防災」「地活協」「戦後七十年」などの各事業に配分されています。全体として「いちばん住みたいまち、住んで誇りに思えるまち」を目指すとありますが、果たしてどう進むのか、区民目線でチェックしてみました。

### 築港活性化・区画整理記念事業・防災・地活協・戦後七十年などに配分

◆ 限られた枠の中の予算

まず、区の前算は約130億円、区民の暮らして

から、国政・府政・市政という制約の中で、つ  
まり、医療・福祉・税金・教育・防災などの大

られた分野を扱っている、とこのことを理解し  
なければなりません。

また、予算総額は九億一七二三万円ですが、

そのうち四分の三(六億三〇九万円)は、区長がCOMシティ・マネージャーとして決定権を持ってはいえ、直接は建設局、福祉局など大阪市各部局の事業のための費用で、この中には放置自転車対策、児童いざいざ放課後事業、老人憩いの家への運営補助、老人福祉センター運営費、街路防犯灯の整備などが含まれています。

さらに、残り二億四〇四万円のうち、一億二〇九万円は、区庁舎の設備維持費、区役所の管理費、区役所付設会館の管理運営事業、保健福祉センターの事業用経費など、いわば役所の維持経費ですから、純粋に港区独自の「まちづくり」に使われるのは、残り一億七三〇八万円、こ



→築港活性化に二二〇〇万円確保。上は大保山、

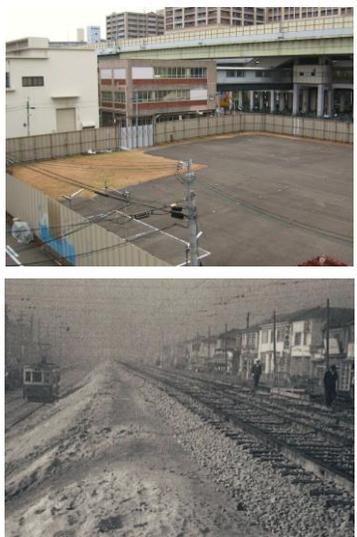
下は「築港ほんくらんくらん」を踊る築港住民

まり予算全体の一九割といつことになります。そのことを踏まえた上で、またそうした制約の中で精一杯の予算確保をされた田端区長の区役所職員の努力に敬意を表しつつ、「報告」とされる項目のいくつかを見てみましょう。

◆築港活性化に有効活用を

まず「築港地区のいきわいせい」のためとして別枠(主目的な特別予算枠)で「築港・天保山エリアにぞわいせいの事業」(住民・企業・グループが主体となり、連携して活性化や環境美化に取り組む)に一〇〇万円、「築港・天保山エリア魅力アップ事業」(民間のアイデアと活力で自主的に活動資金を確保しながら地域の魅力を発信し出す)の仕組み作りをめざすのに一〇〇万円(合わせて二二〇〇万円)が確保されています。かつては大型船の出入りや船員バー街、築港高野山や港住吉神社への参詣(さんぎ)などで賑わった港町。そのパワーを新たな形で取り戻すための事業として、この額でどれだけのことができるのか、心もたずとも感じられますが、ぜひ有効活用して、市民協働でそれなりの成果を上げることが期待されます。

→区画整理記念事業に六八七万円確保。上は記念事業用地、下は区画整理事業の嵩上げ風景



◆区画整理記念事業の検証に活かそう

次に「まちづくりに向けた資源・資産の活用」の一環として、「弁天町駅前土地区画整理記念事業に係る検討調査」(焼け野原から水害に強い町の土台を造った港地区復興土地区画整理事業の足跡を記念施設として残す事業の前身を、区民の意見を踏まえてまとめたい)の取り組みなど)に六八七万円が確保されています。

この記念事業については、その価格が周知も論議も不十分なまま一カ月という超短期で決められたことに区民から懸念が示されています(「日刊西報」)。そのことを踏まえ、その詳細を話し合う区民協議の中からは、港区の歴史的

業を後世に伝えるという主目的にふさわしい施設かどうか、区画整理の歴史展示スペースは図書館の二画ではなく独自に設けるべきではないか、老人福祉センターなど廃止予定の三施設は残すべきではないかなどの検討と同時に、今後の区の新たな重要案件のためにも、こうした迅速な進め方への検証も併せて扱われることが求められます。それだけに、この予算もそういう方向で活かされることが期待されます。

◆ 防災対策強化に市民協働で実を

また「防災対策の強化」の一環として、「地域防災活動の支援」(避難所開設訓練や防災学習会の実施など)に三六八万円、「防災リーダーの育成」



→ 防災強化に六一六万円確保。上は築港の防災訓練(二戸弘道氏提供)、下は田中の防災訓練

(地域防災リーダーやジュニア防災リーダーの訓練・育成など)に九三万円、「災害対策強化事業」(帰宅困難者対策やマンション住民の垂直避難支援など)に六八八万円、「防災広報・啓発事業」(防災特集広報の作成・配布や外国人への情報提供など)に八八万円、合わせて六一六万円が確保されています。

二万を水に囲まれていることや、高齢者比率・外国人来訪頻度が高いことなど、区の特性を踏まえた防災策として、家族や住民を手助けできるジュニア防災リーダーの養成や、三カ国語英語・中国語などでの防災情報の発信はどついても必要であり、ぜひこの限られた予算を活用し、市民協働で実を上げることが期待されます。

◆ 高齢者支援に成果期待

また「地域福祉の推進」の一環として、「高齢者福祉日間事業」に二二万円、「高齢者等要支援者の見守り支援」(地域見守りコーディネーターの各校下への配置や新たな人材・事業者の発掘・育成など)に二四八〇万円、合わせて二四九二万円が確保されています。

港区でも高齢化や独居化、住民関係の希薄化

← 高齢者支援に二四九二万円確保。上は三先の敬老大会、下は老人福祉センターの発表会(これらの行事に区予算は使われていません)



が進む中、こうした事業はますます必要性が高まる分野であり、ぜひこの限られた予算を活用して、市民協働でそれなりの成果を上げることが期待されます。

◆ 英会話にますますの配分

また「子ども学び力、生きる力の育成」の一環として「学校園における福祉的課題をかえり見児童生徒への支援」(スクールソーシャルワーカー巡回・派遣など)に三二七万円、「中一ギャップ問題の解決に向けた取り組み」(家庭学習促進や別室登校サポートなど)に九〇万円、「港区サードプレイス事業」(家庭でも学校でもない第三

の居場所作りなどに四八万円、「絵本による」子どもの読書活動の促進」絵本広場の開催などに四一万円、「地域の強みを生かした教育力向上事業」(子どもサンエンスカフェなどに一五万円)「子ども英語でのコミュニケーション能力を高める英語交流事業」(小中学生を対象とした英語村や英語いけ宿などに八四四万円)合わせて一一五五万円が確保されています(うち英語交流事業は全市的な特別予算枠で確保)。

社会の荒廃を憂念し、学校が教育の場としての力を徐々に失いつつある中、その教育力を地域から支えるには「<sup>おしゆ</sup>受験の課題」となっています。その意味では、制約の中であられただけの予算



↑子供の学び支援に一一五五万円確保。上は池

島小学校、下は田中小児童の集団登校風景

を確保された区の努力には全体として敬意が表されるべきですが、その配分には問題がありま<sup>す</sup>。特に、別枠確保とはいえず英会話に過半を割いた姿勢には「英語が話せなければ人間じゃない」といった昨今のアメリカの植民地的な露骨な無批判な迎合が感じられます。今の日本の青年に決定的に欠けているのは母語である日本語でしっかりと物事を考え、整理し、述べる力であり、その習得を助けるように地域の役目ではないでしょうか。ですからあられただけの額を英語などで割くよりも国語力や科学力の育成こそ向けるべきであり、今からでも可能ならば区の裁量で使っ道を修正するようが望まれます。

◆ 地活協補助への根本的な検証も

また「区民主体のまちづくり推進」の一環として「地域活動協議会」に対する補助事業「地域活動協議会が自律的・継続的に活動するための財政的支援」に二九二二万円が確保されています。「まちづくりは地域民のまじり」を看板に掲げて三年前に発足した「地域活動協議会」については関係者の間でなお「地域の声ではななく上からの都合で意思を押しつけられた」「仕



↑地活協補助に二九二二万円確保。上は弁天の総会、下は地活協主催の池島ふれあいまつり

組みがよつつ分かった」「地域住民はほとんど知らない」「補助金が(全体として)少なくなり活動が窮屈になった」「地域振興会が全住民をカバーしている上」「こんな組織が必要なのか」「地域へ落とす金を減らして都構構やカジノ誘致や何でも民営化など財界本位に市民の血税を流すためではないか」「金で連絡の経路を一本化することで地域を制御しやすくなるためではないか」などの懸念・疑念が<sup>よく</sup>湧いています。当面の地域活動を維持するにはこれだけのお金は必要であり、これはこれで執行するしかありませんが、それと並行して、こうした懸念・疑念にこえる根本的な検証(つまり「地活協をこのまま続け

てよいのか」といつ根底からの振り返りも求められる。JMSDF。

◆ 戦後七十年事業に活用期待

最後に「豊かな」コミュニティへの推進の一環として「戦後七十年記念 大阪港周辺戦争体験・復興記録事業」戦争体験者二十名程からの聞き取り、大阪大空襲被害からの復興について資料の収集・記録・編集・公表、子供への歴史語り継ぎなどに五〇五万円が確保されています。

戦後七十年が経過し、戦争世代の減少と共に戦争体験の風化が言われる中、大阪で最も被害の大きかった港区の被害と復興の様子を伝える残すことは、悲惨な戦禍を再び将来の区民が味わ



→ 戦後七十年事業に五〇五万円確保。上は戦中の建物疎開、下は三月空襲を描いた区民の絵

うことのないため、また戦後復興の歴史を通じて次世代が港区民としての誇りを持つためにも区の最重要課題の一つとしてそのものではないでしょうか。その意味で、限られた予算の中でこれだけの額を確保された区の努力に敬意を表すると共に、「これを最大限活用して、市民協働でその実を上げることが期待されます。」

◆ 区の限界はまず、市民協働で貢献を

——以上、見てきたように、国政・府政・市政によって庶民生活が全体として悪き方向へ向かう中、港区八万住民の生活向上を願って、区役所の努力で確保された区予算。その中には当然ながら、区民生活に資することが期待される内容と共に、疑問や注文はさまざまに部分も見られました。

その上で港区民としては、そうした区役所としてのやむを得ない限界を踏まえながらも、全体としては区民生活を支えてくれる公務に信頼を置き、可能な範囲で市民協働による貢献をするとして、区政よりもはるかに大きく区民生活を左右する国政・府政・市政にも関心を向け、特に直近の大阪都構想の住民投票には、

← 区政会議で港区予算を発表する田端区長ら区職員①と意見を述べる委員② 〓 三月二十四日



「何が真実なのか」「何が区民のためになるのか」ならないのか」を見極められる情報収集と判断をもって臨むことが期待されます。

**住まいの防犯レベルを高めよう**

- ① ワンドア・ツーロックは常識
- ② ピッキングに強いカギに交換
- ③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎ 0120-70-5569

**(アネ) 港カギ防犯センター**

安全・安心をご提供します

港区港晴1-4-8 (港晴小学校並び)

☆大阪府鋭前技術者防犯協力会会員  
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

# 防災計画など論議

区政会議 新年度予算やオーク問題も



→ 港区防災計画の修正や新年度予算について議論が交わされた平成二十六年最後の港区区政会議＝三月二十四日夜、港区役所

「災害に強いまちへ防災計画を充実させよう」。三月二十四日に港区役所で開かれた平成二十四年度第四回(最終回)の「港区区政会議」には委員二十八人(四十九人中)と区役所職員二十数人が参加。港区防災計画の修正や新年度予算などについて真摯な議論が交わされました。

◆ 新年度予算を話す

会議は武智虎義議長が進行。冒頭、田端尚伸・港区長が活発な論議を呼びかけました。

中心議題の一つ「平成二十七年予算」を取り組み「については、担当職員から港区運営方針の柱①区民主体のまちづくり②安全・安心・快適なまちづくり③健やか・くまなく暮らせるまちづくり④子育て世代が魅力を感じるまちづくり⑤訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり⑥自律した自治体型の区政運営」に沿って、総額九億の予算のあらましが示されました。

この中では、①港区サードプレイス事業(子供たちが家庭や学校以外で自由に会話や学習ができる第三の場所をオープンし、生きる力・学ぶ力を育む)に四十八万②築港・天保山エリア魅力ハワーアップ事業(地域や民間事業者がこの

地域の魅力の発信や創出を、自分たちで資金づくりをしながら持続的・自立的に進められる仕組みを作る)に二〇〇万③弁天町駅前土地区画整理記念事業に係る検討調査(平成三十三年度完成予定の区画整理記念・交流会館の事業内容を区民の意見を踏まえてまとめると共に、廃止される公共施設の取り扱いも検討する)に六八七万円などが注目されました。区民目線での予算チェックはトップ記事を参照

◆ 防災計画を直す

また、もう一つの中心議題である「港区防災計画の修正」については、担当職員から主な修正点が示されました。

その中では、①被害想定を「南海トラフ巨大地震による大阪港への津波到達時間は二―四分津波の高さは最大三・八メートル、死者は九八八五名」などと修正した②予防対策に「八幡屋・池島地域(三十間堀川周辺)は地震発生直後から浸水が発生する恐れがあり、即時避難対策と共に着実な防潮堤整備に取り組み」などを加えた③予防対策に「要支援者を支援する基盤が整った地域の自主防災組織から要請があった場合には要支

援者情報を本人の同意を得て提供する」などを加えた④応急対策に「区本部は…遺体仮収容安置」所の設置・管理運営を行なう」などを加えた⑤津波避難シェルに「地下鉄弁天町・朝潮橋・大坂港の三駅」を加えた⑥予防対策に「民間企業などとの連携強化」を加えた⑦「風水害」の項目を加えた一ながは注目されました。

◆「コムポートの配備を」などの意見が

「その他、「弁天町駅前土地区画整理記念事業」「オーク200土地信託事業」などについて、区長や市の契約管理庁などから説明がありました。またそれぞれの議題については説明の後に質疑応答が行なわれましたが、その中では次のようになり取りが注目されました。

・オーク200土地信託事業が破綻して市が六七億円を銀行に支払う結果になったことについて、原因は何か(矢田委員長)→複雑な経緯から原因や責任の所在を問うことは困難との外部監査チームの報告を真摯に受け止めている(契約管理庁)→そや孫まで続く借金の原因をきちんと説明するのが誠意。ホームページだけでなく広報紙でも報告を(同委員)→後の市有地利

↑港区区政会議で議長を務める武智虎義さんと、委員の意見に答える田端尚伸・港区長



用については慎重に取り組んでいきたい(同委員)

・水害対策として各地域「コムポート」雙すの配備を(大西委員)→効果的な水害対策について関係局と相談・連携して検討したい(区役所)  
 ・区の情報ホームページで「と言われても戸惑う(大池委員)→広報紙を見れば全て分かるように努めているが、ホームページによる情報についての周知方法も検討したい(区役所)

・落書きが目立つが、消すのはどの担当か(矢田委員)→JR弁天町駅下で壁面制作に取り組んで来たが、こつとした活動を落書きの消去も合わせて広げていきたい(区役所)

・地域防災で避難誘導を実際に担うのは赤十字奉仕団(町会)なので防災計画の修正も前

が消された。きちんと位置付けを(上田委員)

→実際には赤十字奉仕団が中心的に担うが、他の層も命めたよりの幅の広い「自主防災組織」に市が名称を統一したので、区も合わせた(区役所)

・区画整理記念・交流会館(仮称)へは弁天町交差点の地下と地上を上下する「こなへ」ハリアフリーで通行できるように(山本委員)→地下道新設は予算化できないが、国交省が交差点の地下四力所にエレベーター整備を検討しているので、その南西角のエレベーターと連動させてスムーズに入れるようにしたい(区長)

・区画整理記念・交流会館の事業内容に女性の視点を(大池委員)→事業内容を検討する(町会)キングチームの女性比率を高めたい(副区長)

◆「誠実なやりとりが印象」と傍聴者

その後、傍聴した区民は「こしもながら区役所の誠実な準備と対応、委員の真摯な意見・質問が印象的でした」「オーク200の問題では銀行にも責任があるのに何で市が損害賠償するのか、納得いかぬ」「町会の位置づけが(地活協)によつて不当に低くなったと指摘した上田委員の意見はよかったです」「新しい話になってました」。

# 叫びたい！

樋口 曜 さん (南市岡)



## 大阪の地で福島と

### 繋がるとは何か？

今年一月末に、以前から行きたいと思っていた福島を初めて訪問する機会ができました。

◆ 生活の場に入港が侵入

二十八日の深夜に大阪を出発して、二十九日

の朝、福島へ行く前、「いれどもまた初めて訪れた場所があります。三里塚(三葉真成田)です。今回私は、三里塚の野菜を毎日福島へ届けの活動をしており、古河潤一さんの車に乗せて頂きました。古河さんの福島訪問は、回を四十四回目、また古河さんと交代で車を運転して下さった高橋直人さんも、そのうちのひとつを同行しておられるようです。

三里塚ではまず萩原富夫さんのお話を聞き、野菜を受け取り、車に積み込みました。キュウリと巻きの良い白菜が「玉のしほり」と新聞紙で包まれ、紐で縛られて、たくさん積み上げられている様子が、美しいものでした。他にも人参、丸大根、牛蒡と車の中は野菜で一杯になりました。

そして、ちみじみ畑で切干大根を作っており、れた市東孝雄さんにお会いし、挨拶した後、櫓に登らせて頂きました。私たちがそこにいた短い時間にも、目の前を、数機の飛行機が大きな音を立てて着陸してきました。農地や宅地の間に飛行場の滑走路、誘導路が入り組むように伸び、まさに生活の場に入港が侵入しているように

か言ってしまうのではない光景に強い衝撃を受けました。

◆ 仮設住宅に無農産野菜を

福島に入ってから、面積にして大阪府の七倍に及び福島県のあちこちを訪問する中で、その移動距離はかなりのものです。最初に訪れたのは福島市松川、次には真北部の桑折町へ。仮設住宅の集会所の玄関へ野菜を降ろし、短い挨拶を交わすと、またすぐに次の目的地へ入居するといつ慌ただしい訪問なのですが、お互い顔を見て通じ合われている様子が、古河さんが続けておられる地道な活動の積み重ねによって築かれた繋がりを感しました。

◆ 言葉が通じない思いを抱え

日もつぐり暮れた頃、再び松川の仮設住宅へ戻りました。以前、大阪での集会に来てお話し下さった、高橋正人さんと夫妻のお部屋を訪ねました。その日、そこで待っておられた住民の女性と暫く、このたび仮設を出て近くに家を建てられたご夫妻の家へ行くと言われ、新居を訪問しました。

おでん、猪鼻ご飯、ぼた餅……、三人の女性

たちが、それぞれに美味しい手料理を用意して

下としていました。二世帯五名の方たちは、飯館村長泥の住民です。長年生活してきた地域が帰還困難区域になったという悲しみ、怒り、悔しさ、何とも表しがたい思いを抱えておられるであろう中で、共に酒を飲み、朗らかに笑い合っ人たち。仮設についても新居を構えても、住民同士がしっかりと繋がって生きておられる、力強さを感じました。

#### ◆ 飯館村の特養ホーム

二十日は、朝から雪が降る中を「本松市の仮設住宅に野菜を届けた後、飯館村の特別養護老人ホームにいったってホーム」に向かいました。道中、雪の中での除染作業を目にしました。また道沿いには、除染した表土を詰めたフレコンバッグが何段にも積み重ねられた「仮置き場」もありました。ホームに到着し、野菜を降ろした後、事務職員が施設内を案内して下さいました。

最初は二十名ほどの規模でスタートしていたってホームは、徐々に増床し、二〇二一年度からは一三〇名規模で運営するはずだった矢先に原発事故が起こり、現在は四十名の利用者がこいど暮らしているとのこと。フロア（一

つは認知症対応型）あったトイレスモ、事故以来、閉鎖しているそうです。「この地は居住制限区域となっており、職員さんも、①区域外から通勤する②線量計を持ち自己管理する③車で通勤する（自転車やバイクはダメ）という制約もあって、だいぶ減り、現在は約四十人。

今は使われていない居室や食堂、ティンフロアを見た時には、「本当に原発事故さえなければ、自然豊かで温かくゆつたりとしたこの施設に、利用者さんたちの笑顔があふれていたのだらう」と胸が一杯になりました。しかし同時に「避難するところにおいても」「弱者」とある高齢者の生活を、さまざまな困難の中で生きていくこのホームの存在の大きさを感じました。

#### ◆ 殺処分拒否の三百頭の牛と吉沢

午後には、浪江町の「希望の牧場・ふくしま」を訪問しました。福島第一原発から十四キロの牧場で、吉沢正巳さんは、国の家畜全頭殺処分を拒否して三百頭の牛たちを飼育し続けておられます。すでに肉牛としての商品価値はない牛たちを、「放射能被曝の証拠」として寿命まで生かし続けるのだと話されました。

殺処分に同意した酪農家からは「自分たちは涙をのんで命令に従ったのに、何で飼育しているんだ」と抗議もあつたそうです。しかし、「彼らを否定はしない、彼らは彼らで正しいんだ」



→全頭殺処分を拒否して「希望の牧場」で三百頭を飼育する吉沢さん。原発事故に抗議し、賠償と牛たちの保護を訴え、全国へ宣伝カーを走らせる「サイゾー刊『原発一揆』より

吉沢さんとは言われました。避難については「逃げた方がいい、そんな人は誰でも分かってる」と。第三者としての謙遜しを理屈で云々する人があつた。止事者の抱える複雑な心情が思われました。

牧場から福島第一原発三台機の二度の爆発音を聞き、自衛隊の放水作業に伴つて白い噴煙を見たという吉沢さん。原発事故後ほとんど東電本店、農林水産省、原子力保安院へ乗り込み、事故に抗議し、賠償し牛たちの保護を訴えられました。その後も牛の世話の傍ら、たびたび東京や全国各地へ宣伝カーを走らせ、渋谷・八子公前の街頭情報発信を繰り返したのです。吉沢さんの凄まじい行動力は、すでに「決死救助」といふ言葉を体現していると思います。しかし「どうもありがとうございます、実力をつけなければ」と線の返る吉沢さん。その牛を養育する費かかっている「国に勝つて」といふゆえにない信念は、「私たちが大阪でもっと行動できるはず」と私を揺るがすまじい。

◆ 高尾の牛飼いで、くだらなく

1360から1365後、三春町を訪問する予定です

だが、大雪のため断念。急ぎよ、希望の牧場を一緒に訪問したいわき市の友人宅に身を寄せました。福島第一原発のすぐ傍を通る国道八号線を南下し、いわき市へ向かう道中、夜遅く、暗い中でしたが、さきまの光景を目撃しました。壁を津波にさらわれたまま、大きなショーウィンドウが割れたままの建物、入口が封鎖されたまま営業されていない大型店舗、バリケード封鎖され立ち入りが禁止されている家屋、津波被害による遺体安置所になっていたという温泉施設、人影のない街に残る原発推進の看板、労働者を原発へ運ぶバス……。四年近くの時間が、ここに重く凍りついておぼろげに感じました。三十一日、三春町の仮設住宅を訪ねました。集会所に野菜を降ろすと、高尾村議会元議長の松本政雄さんのお宅へお邪魔しました。温かい味噌汁、煮物、お豆腐など、お連れ合の厚い飯を馳走になりました。松本さんは、「高尾村へ帰ったらまた牛を飼いたい。種牛は他所へ預けてある」と目を輝かせて話されました。お話から、牛への深い愛情がうかがわれました。

◆ 原発事故で失ったもの大々々

又方、田村市の仮設住宅へ。仮設の自治会の役員さんら男女八名の方が迎えて下さいました。とおきのお酒と猪鬃ご飯、イカと人参の煮物、黒豆などを下はれながら交流しました。「仮設から追いつく」とはなごい言っているが本当に大丈夫だろうか。この先への不安を抱える中にも、住民の結束は固く、「自治会の役員選挙が終わったら花見をしよう」と元氣な提案がなされていました。皆さんに見送られて、帰途に就きました。

——福島に生きる人たちの出会いの中で、強く印象に残ったことは、農民にとってその地を土を耕すこと、酪農家にとって牛と生きること、その思いの深さです。それは、国が福島に対して「安全キヤンペーン」を張り、帰還促進を図る中で語る「郷土愛」などは、全く別次元のものです。その思いに触れてなお一層、原発事故が奪ったものの大々々を知りました。東日本大震災として原発事故から四年と経つ、大阪の地で福島と繋がることは何かを確かめつつ、日々歩んでいきたいと思います。

(港の同組の電話) 05-1488-1100

# おどろくすばゆい！

小西 正敏さん（六三歳、田中）



## 血税使う意義あるか？

### 「都構想住民投票は無駄の骨頂

◆「大阪都構想」の住民投票（四月二十七日告示、五月十七日投票）での賛成・反対の票取り合戦が選挙戦をなからうに行なわわつてます。「大阪をどうするか」という大きな選択を住民投票に委ねるという自体は民主主義の一つの形では、ただただ無駄とまでは言いません。

### ◆「こんなところの場所か！

しかし、消費税八パーセントの四月からは①介護保険料のアップ②国民年金の減額③諸物の値上げ④大手賃上げも中小へ波及せず—など私たちを取り巻く環境がますます苛酷（かいく）なっている現実からすれば、「市民の大切な血税（ちけい）を投じて、こんな場所にする場所か！」とこののが率直な思いです。単純に言っても、投票をやめるだけで九億三千万円（公報）投票の経費（けいひ）が浮き、それを福祉や教育に回せるのです。

また、地域の活性化や無駄の解消はもちろんだ切ですが、構想の自身が十分説明されず、たとえ説明があっても、都合のよい「まかしたらのデータやイメージをふりまかれて」「それで大阪がどう変わるのか、よく分からん」といのが、私をきめた多くの市民の本音です。

### ◆大阪の民主主義は死んだ？

では、なぜ「このような無駄な住民投票をわざわざ実施する」ようになったのか。それは、①昨年十月に大阪都構想の協定案が大阪維新の会以外の主要政党の反対で大阪市会と大阪府会の両方で否決された②この十一月二十四日に

公明党が「協定書の中身には反対だが、都構想の議論を前に進めるための住民投票までは協力する」という方針へ大転換した③それを受けて今年三月に再度、協定書案が両議会に提案され、大阪維新の会と公明党の賛成多数で可決された—とこの経過を辿ったからなのです。

この「何を言ってもはじきかれますか？」私はこれこそ市民不在の闇取り引きであり、この問題に関する限り大阪の民主主義は死んだも同然であり、その上で実施される住民投票には何の意義もない—と断言します。そしてこれこそ大阪維新の会がこれほど「解消」を唱える「無駄」の骨頂（こてい）ではないでしょうか。

### ◆市民の良識を結集して大阪の道を！

では、今さらから投票の中止ができません。十分承知しています。そこで皆さんに訴えます。「この住民投票を機（を）に一度、都構想とは何かを自分でよく調べ、考え、それがいかに実現性もメリットもないうつらであるかを心に刻み、その上で、「これは本当に私たちの大阪を元気にしようか」という道は何か」を、それこそ市民の良識を総結集して考えようではありませんか！—

あれこれガイド

●天満宮「筆供養祭・献茶祭」 使い古した

筆や鉛筆、ペンなど筆記具に感謝を込めて供養し、書道・文字・学業・習い事などの上達を願う(筆供養祭)と共に、薄茶を神前に奉納(献茶祭)、最後に境内の桜を愛でながらお菓子とお茶を楽しむ(お茶席)。境内には地域の子どもたちが手形で鱗を描いた鯉幟が揚がる(五月中旬～末頃まで掲揚予定)。四月十八日(土)十四時から「筆供養祭」と「献茶祭」を併行して斎行、十四時半から「お茶席」(十七時最終受付、初穂料五百円)。供養したい筆記具は三日か事前に社



→過去の「筆供養祭」から筆記具(上)とお茶席(下)

務所へ持参。書く道具以外(消しゴム・定規・筆箱など)は対象外。祭典参列無料。焚き上げ供養は後日▽天満宮は三死一・五・四〇(港南中学校の北隣)、☎065721-0517。

●海の写真コンクール 海への関心を高めるため「海の日」(七月十日)に向けて毎年実施。

三十七回目。海運・造船・港湾・湖・川・魚など広く海をテーマにした写真を募集。カテゴリーはA4サイズ。いずれも平成二十六年八月以降に撮影した単写真に限る(合成や変形で事実と異なる加工作品は不可)。六月十五日(月)必着。近畿運輸局長賞(賞金三万円+トロフィー)、大阪府知事賞(賞金一万円+トロフィー)、大阪市長賞(同)、大阪海上保安監部長賞(同)、入選二十点など各賞四十点。発表は八月下旬。展示は海遊館エントランスビルで七月十日～八月九日(上位十点のみ)。全入選作品はHPで閲覧可。応募及び詳細は主催の公益社団法人近畿海事広報協会(T552-0021 大阪市港区築港二・七一五港振興ビル204号室、☎六五七二二一六三八七、HPはhttp://kin-kika

↑「海の写真コンクール」のイメージ



i.j.i.sakura.ne.jpへ。

●全国中学生・海の絵画コンクール 海への関心と知識を深めるため毎年実施。五十一回目。今年四月一日現在、大阪京都奈良滋賀和歌山の中学校に在籍の生徒が対象。テーマは①外航船の絵(コンテナ船・タンカー・大型貨物船・フェリーなど。着岸・荷役など活動風景を含む)②海に関する絵(海に関する絵画・未来図など)広く海に関係するもの。海・船・港に限らない。水彩・パステル・クレヨン・版画などで大判画用紙(三八センチ×四一センチ)に(標語のような文章は入れない。裏面に画題・学校名・学年・性別・ふりがな付き氏名を記載)。一人一点。六月十五

日(月)必着。中央審査(テーマ①のみ)と地方審査(テーマ①②)による入選作品(金賞・銀賞・銅賞・佳作など)を七月十日～八月九日に海遊館工ントランスビルで展示。申し込み、問い合わせは主催の公益社団法人近畿海事広報協会(〒555-20021 大阪府港区築港二・七・一五港振興ビル204号室、☎六五七三・六三八七、HPは<http://kinkeikai.jp/>へ。

● **ワークみなと「東北食品市」** 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体ご心によさしい豆腐・豆乳・青豆(あわめ)豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎日第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(☎四一・六一三、☎六五七一・七五二一)。

● **ムチ打ち(首・腰 無料相談会)** 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。四月二十八日(日) 十～十八時に行政書士

のむら事務所(築港二・七・一・六〇〇)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。「ごついたらら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。Eメール [info@jikkou110-nomura.com](mailto:info@jikkou110-nomura.com)、TEL六五七六・六〇七八、FAX六五七六・六〇七九。

● **港区私たちと戦争展** あの戦争から七十年。次世代に戦争の真実を語り継ぎ、平和を送り継ぐため、三年間のブランクから復活開催。日中戦争、国防婦人会、大阪大空襲、原爆投下、戦後復興、平和運動などの歴史を写真・絵画・遺品などで辿る。七月十五日(土)～十八日(日)



→ 過去の「港区私たちと戦争展」から

に港区民センターで。展示充実へ戦前・戦中・戦後のアルバムなど資料の提供歓迎(終了後返却)。成功へ五百田善也で広告掲載を募集。申し込み・問い合わせは主催の港戦争展実行員会(磯路一・七・一一「港生活と健康を守る会」内、☎六五七六・四八〇九)へ。

● **障害年金もれの心当たりある人は相談を** 障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられないのに請求手続きをしていない人が相当数(身体障害者では〇・四割)二万人程度(にのぼることが厚生労働省の調査で判った)二〇二三年七月。原因の大半は、「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所(磯路二・一五・一七、☎六五七一・五〇三二)まで。





ヤンペーンは常軌を逸しています。町内活動は  
みんな地域のため、住民のため、奉仕をやっ  
つてゐるのです。田舎な人か田舎わけがない。

それに、今度の住民投票は「公職選挙法に  
る選挙だから、公共施設を利用して賛成・反対  
の集金をするのはけなご」と言ひながら、自  
分は公的施設をせしめて宣伝している。都構想  
に批判的な京大教授の番組出演に圧力をかけた  
のは橋下氏。ユリカバ、やめいとなさいよ、ま  
るいロッキ。じつじつやり方しかできない所  
に、この構想のごご加減が表われています。  
今度の住民投票とは、こんな詐欺師グループ  
が、度々立ち上がられたよう、市民は圧倒的な  
反対で、この構想を葬り去ってほしいと強く  
願ひています。

### 市民に「メロニア」を「都構想」

(海尾通・糸組地区) (橋)

橋下市長の「大阪都構想」の狙いは、ハ  
政令市の大阪府を廃止し、大阪府(都)がその  
権限(財政)を吸収し、開発事業に投資する「メ  
ロニア」。

使つて夢を振りまっています。地下鉄・水道な  
どの民営化はその中心的内容であり、都構想の  
財源捻出にもそれが欠かせないので、今は議案  
で否決されていますが、都構想が実現すれば、  
真つ先に「民営化」着手するでしょう。

東京二十三区がモデルになっていますが、それら  
の区長はみな「自主財源は少なへ、都のせい加  
減でどうにでもなる、都の下部組織だ」と嘆い  
ています。特別区はそれよりもなお権限があり  
ません。赤バス全廃、敬老バス廃止などこれま  
での市民いじめに加えて、市議会をつぶして、地  
域を分断し、新庁舎など膨大な無駄を生むもの  
でもあり、市民は何のメリットもありません。  
投票日には絶対「ノー」を突きつけてほしい。

### 心洗われた中学生の職場体験

(田・岡・四十代 会社員)

「仕事の苦さや喜びについて、市岡中学生が職場体験  
(二三日二十回)を読みました。私たちの中学時  
代にはなかった取り組みを体験できる今の中学  
生を、とても羨ましく思いました。特に、参  
加した中学生たちの感想が洗われました。

将来の夢と結び付けて、「こんな経験が役だつた  
」など振り返つてくれる人が多いのでは。  
もし自分が昔、同じ体験をしたら、「こんなじつ  
かりしたことが言えたならうか(笑)」と、ちょ  
っとブルーにもなりました。

それから「ユニバ防災リーダー講習(二三日)  
二十八回)も、私の中学時代にはなかった活動  
ですが(たしか避難訓練はありました)、地図  
を囲んで図上訓練をする時、ホームルー  
ム放課後に色々なことを語り合ったあの頃が思  
ひ出され、ちょっぴり胸がキュンとなりました。

### 『幸運橋の王』楽しみ

(弁天・七十代 無職)

『幸運橋の王』(昨年十月)から連載(楽)を楽  
しく読んでいます。お父さんは、腕の良い  
女遊びや賭け事とお母さんを困らせ、主人公の  
久美子さんが本当「可哀想」になります。そんな  
悪いお父さんでも好きでいるお母さんの気持ちも  
分かり、涙が出ます。「これからどんな苦労を  
されるのか、そしてそれを乗り越えていくか  
れるのか、楽しみます。



# 戦争・貧困ない世に！

港の労働者が相次ぎ春闘集云



「戦争も貧困もない社会に」と訴えた港区の春闘(写真は三月十五日、『がんばろう』をリードする劇団員と青年労働者) 長周新聞提供

「戦争も貧困もない社会を！」「労働者と中小業者は団結しよう！」「大阪市の解体を許すな！」。全国の労働者が統一して賃上げや待遇改善を目指す。「春闘」が港区でも闘われ、三月には相次いで集云・デモが行なわれました。

## 政治課題掲げトラックデモ

このうち三月十五日(日)朝には、生コン産業政策協議会(連帯労組関生支部・全港湾大阪支部・生コン産業労働組合・近畿圧送労働組合)による「二五春闘勝利・専業主導の業界再編、適正価格収受、品質確保、安定供給の実現をめざす3・15自動車パレード」が行なわれ、多数の労働者と共に、ミキサー車・圧送車・牽引車など大型トラック 五〇台が参加しました。

◆ アメリカや死の商人を糾弾  
 出発に先立って海岸通で集云が行なわれ、主催四団体の代表が挨拶。初めに連帯労組関生支部の武健一委員長が「アメリカは世界各地で戦争を続け、安倍政権は特定秘密保護法や集団的自衛権発動でそれに従い、その下で独占資本・大企業が死の商人になっている。我々がめざす

「海岸通の春闘会場に結集した生コン労働者や港湾労働者」と、圧送ポンプ車を駆使して掲示されたスローガン(長周新聞提供)



のは競争社会ではなく共生協働の社会だ。中小経営者と労働者の間には対立点もあるが、独占資本の収奪に対して、経済・産業・社会構造を民主化するという大きな目標を見据えることが重要だ」と内外情勢の中で労働者の立場を強調。「そのためにも戦争に反対し、全ての米軍基地を撤去させ、自分たちの要求と業界の発展を勝ち取る。我々が動くことが全国に影響を与える。共にがんばろう」と力強く呼びかけました。

◆ アバノミックスの罪状を暴露

続いて全港湾大阪支部の山元一英委員長が「アバノミックスとは何か。株価が上がって儲けているのは投資家や金新生活者など一部の不労所得者だけ。雇用が二〇〇万人増えたというがほとんどが非正規だ。逆に二〇〇万人の正規が減っている。田安で輸入物が値上がりし、実質所得は三・五割のマイナス。こんな状況を変えたい。港湾労働者も共に闘つ」と決意を表明しました。

◆ 劇団はべるま座が連帯の舞台

来賓挨拶に続いて劇団はべるま座（山口県を拠点に勤労人民の立場に立った文芸活動を続ける劇団）の団員が登場し、四月に大阪で『動けば雷電の如く―高杉晋作と明治維新革命』（二六頁「演劇ガイド」に案内）の公演を準備して公演日を報告。『舞の芸術家の使命』に立ち戦争も失業もない、働く者が主人公となる社会をめざして皆さんと共に闘つ」との決意表明のあと、『たたかいのなかに』『がんばるこつ』『のこつを披露しました。』『がんばるこつ』では奈良Bブロックの青年労働者四人が壇上に駆け上

がり、劇団員と共に、元気な踊りで大合唱をリード。期せずして親しみのもった笑いと手拍子が沸き起り、全参加者の心が春闘に向けて一つになったように感じられました。

◆ 労働者の規律と団結を示した運営

このあとの自動車パレードでは、参加した全ての車両に横断幕や赤旗が結び付けられ、横断幕には「万国の労働者 団結せよ」「憲法九条改悪反対！」「辺野古移設反対！」「全米軍基地撤去



→ 一般車にも注意を払いながら整然と行進する

「自動車パレード」風景と、ミキサー車に掲げられた「辺野古の新基地建設反対」のスローガン（長周新聞提供）

！」「自衛隊の海外派兵反対！」をはじめ、「業界は競争を止め共生協働の社会を作ろう」「労働者の解雇自由化反対」「共同受注・共同販売事業を実現しよう」「コンクリート圧送労働者の共同雇用保障制度を確立しよう」「大阪の全ての協同組合が大団結して値戻しへ！」「警察の不当弾圧を粉砕し春闘を勝利しよう！」「中小業者主導の業界再建へ！」など創意工夫を凝らしたスローガンが躍りました。助手席に子供や夫人を乗せた運転手や女性ドライバーの姿もあり、道行く市民が共感の眼差しを向けていました。

集会場では圧送ポンプ車を駆使したスローガンの掲げや終了後のゴミ拾い、パレードでは整然とした出発風景や一般車両にも注意を払った運転ぶりに、労働者本来の規律性と団結性、力強さを感じられました。

都構想反対掲げ官民労働者

一方、二月十三日（金）夜には、港地区平和人権連帯会議（平和と人権を求める市民の集まり）に加盟する民間労働組合と自治体労働組合による「二五春闘勝利・官民連帯集云」が八幡屋の入

舟公園で行なわれ、労働者一五〇人が参加しました。「この集会は毎年この時期にこの場所で行なわれ、港区の春の風物詩ともなっています。」

◆労働者敵視の橋下市政を糾弾

冒頭、港区区平和人権連帯会議の中村吉政議長（全国金属機械労働組合・港区同委員長）が主催者を代表して挨拶。「この中で同議長は「四年前の地方選以降、大阪の街はガタガタにされてしまった。誰よりも法律を守らなければならぬ」と弁護士である市長が、判決や労働委員会命令を無視して控訴や上告をする。これこそ最大の無駄ではないか」と橋下市長の労働者敵視を糾弾。その上で「大阪市の解体・分割は絶対に阻止しなければならぬ」と述べ、住民投票での「大阪都構想」反対と統一地方選での支持候補支援を呼びかけました。

◆派遣労働者の増加を告発

またユニオンネットワークの垣治委員長は「労働者派遣法の制定で派遣労働者が延べ二〇〇万人まで増えた」と危機感を表明。「こうした流れを止める春闘の意義と地方選での支持候補当選を訴えました。」

「民間と自治体の労働組合が連帯して開いた「一五春闘勝利・官民連帯集会」。上は挨拶する中村吉政議長、下はデモ行進に出発する参加者。三月十三日夜、入舟公園



上部機関である南大阪平和人権連帯会議からは「住民に何の説明もなく多数決で決める（大阪都構想の）住民投票には納得いかないが、投票所に足を運んで反対票を入れる運動を広めよう」との訴えと共に、辺野古基地建設反対のための現地学習会や訪問団への参加呼びかけが行なわれました。

また地域活動家の江川ひろしさんは「大阪を、港区を、どのように残していくのか。政令指定都市として手元に権限と財源がなければまちづくりなどできるわけがない。大阪の未来を一緒に作っていきましょう」と強調し、都構想反対と住民本位のまちづくりを呼びかけました。

◆労働者の気概をアピール

最後に「市民サービスの圧倒的な低下と行政の停滞・麻痺をもちます特別区設置のための住民投票には反対の意思をあくさらかにしよう」との集会決議が読み上げられ、「団結がんばろう」が全員で唱和されました。

終つ後はデモ行進に移り、「都構想反対」「特別区設置反対」「橋下市長は不当労働行為をやめろ」「辺野古基地建設反対」「なまのシブシブ」コールを上げながら、みなぎ通を磯路公園まで東進。沿道の人々に春闘勝利と労働者の気概をアピールしました。

**働く仲間の相談所**  
倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも **無料**  
困ってませんか？  
港合同 (南市岡3-6-26) ☎6583-4858

**被災地農民を支援します。**  
**反原発の声をあげよう!**  
ご協力下さる方はご連絡下さい

**三里塚産直野菜の会**  
磯路2-3-9 (三社神社そば) TEL.6572-0130

# 消費増税なんでもねん！

## 中小零細業者が集団申告



→「消費増税なんでもねん」とシュプレヒコールを上げながらみなと通を港税務署へ向かう

港区の中小零細業者＝三月十三日午後

「消費増税なんでもねん」。不況で重税

に苦しむ港区の業者が怒りの声をあげました。

確定申告期間（二月十八日～二月十八日）の最終

日を前にした二月十二日（金）午後、港区の中小

零細業者の集まりである「港民主商工会」がこ

の時期恒例の「重税反対全国統一行動」を開催。

一百人超が参加し、港区民センターでの決起集

会のため港税務署に向かつてデモ行進、集団で

申告書を提出しました。

### ◆ 増税中止の運動を呼びかけ

集会では重森拓也（しげもりひろゆき）会長（港晴で家電販売電

気工業、六十二歳）が挨拶。この中で同会長は

『税金を払わない巨大企業』という本を紹介し、

「みずほファイナンシャルグループは五年間で

税引き前純利益が一兆二二〇億円、払った税

金は一億五〇〇万円。言い換えれば二二二

万円儲けて税金は二五円。ソフトバンクは年

年度で税引き前純利益が三三八億円、税金が

五〇〇万円。言い換えれば純利益三三八万円

に税金が五〇〇円。どちらもタマミだいなもの。

この本の著者は、こんな大企業減税をやめれば

消費税はなくなると言っている。大企業にま

ともに税金を払わせれば消費税をなくせると周りに訴えてほしい」と呼びかけました。

また連帯の挨拶に立った日本共産党・港区市

政対策委員長の竹内よしおさんは「社会保障

のためだと言って昨春、消費増税が強行された

が、今国会では軒並み社会保障の大改善。この

四月からは介護保険料は値上げ、年金は下がり

っ放し、国保料は上がる、保育料も上がる。何

が社会保障のためか。消費増税なくせとの声を

上げよつ「橋下市長と維新の会がやっているこ

とは大企業優遇・ゼネコン奉仕の大型開発。こ

れで活性化するのが。大阪は中小企業と商売の

街。商店街のシャッターを開いてこそ活性化で

きる。橋下市政を転換させよつと訴えました。

### ◆ 申告書を一齐提出

終了後はデモ行進。参加者は黄色い鉢巻（はちまき）と

首巻（くびまき）姿、虎や牛の着ぐるみや色とりどりの風

船も交えて「消費増税なんでもねん」「社会保

障改悪なんでもねん」など連呼（れんご）を浴びた。沿道の女子

高生が一緒に「コールする光景も見られました。

港税務署（磯路）前では重森会長が「要領書」を読

み上げ、そのあと一齐に申告書を提出しました。

# 無実の運動家の解放を！

獄中四十年 星野文昭さん絵画展に反響



→「民衆のために闘い、無実の罪で獄中生活を送る星野さんの解放を！」と開かれた絵画展Ⅱ  
三月、弁天町ORRC2000生涯学習センター

「民衆のために闘い、無実の罪で四十年もの獄中生活を送る星野文昭さんを取り戻そう！」と二月二十一日、弁天町ORRC2000生涯学習センターで「星野文昭 絵画展」が開かれ、支援者や関心ある人たちが鑑賞しました。港区の労働者から成る「星野文昭絵画展 港実行委員会」が主催、「大阪・星野文昭さんを取り戻す会」が協賛。

## ◆ 不正逮捕された文昭さん

星野文昭さんは一九四八年札幌市生まれ。六年高崎経済大学たかぎに入学。不正入学を告発した学生運動に参加し、処分撤回闘争を闘いました。さうじゅう二年十一月十四日には、佐藤政権による沖縄「返還」は本土復帰の願いを逆手にとつて米軍基地を固定化・強化するものだと反対する「沖縄返還協定批准阻止闘争」にも参加しました。が、その際、物的証拠が一切ないままに、機動隊員死亡の「実行犯」とされ、七五年に逮捕。以来、死刑求刑（七九年東京地検）→懲役二十年判決（同年東京地裁）→無期懲役判決（八二年東京高裁）→上告棄却（八七年最高裁）→第一次再審請求（九八年）→特別抗告

←一九六七年当時の星野文昭さん（上）と、星野さんが獄中で描いた絵の一例（部分）（下）



棄却決定（〇八年最高裁）→第二次再審請求（〇九年東京高裁）→異議申立（二二年東京高裁）などを経て、今年で獄中四十年。一貫して無実を訴え続けています。この間の一九八八年に妻・暁子さんと獄中結婚。現在、徳島刑務所在監。裁判の中では、唯一の証拠とされた「供述調書」は「警察・検察に強制されたもの」との証言があり、また、星野さんを犯人と特定した「服の色」が間違っているという「薄書」であったことが分かった（〇八年、さうじゅう、開示された写真から「鉄パイプで機動隊員を殴打」していない（つまりパイプには白い紙が巻かれて綺麗なままである）ことが明らかになった）（〇年）にもかかわらず、一度の再審請求は、いずれも棄却されています。

◆ 愛や平和をテーマに淡い色彩で

絵画展では文昭さんが厳しい獄中生活の中で描きためた絵画から、主に水彩による十数点を展示。花、風景、子供、妻などを題材に、淡い色彩で「愛」「平和」「癒し」「運命」などを表現した作品が、訪れた人たちの目をひきつけ、絵に添えられた暁子さんの詩や幼少期の写真、関連年表なども関心を集めていました。

会場には文化教室などに通う一般利用者も多く訪れ、初めて触れる世界に驚きを見せながら鑑賞。「暗い獄中で、しかも高齢の男性が描かれたにもかかわらず、絵のタッチがとても明るく優しいところに感動しました」「しまい・へたという技術的なものを超えて、愛や平和や助け合いのメッセージが伝わってきました」「無実の罪で獄中四十年とこの想像もできませんが、それに耐え続けられていることを知って、逆に励まされます」「戦争へ向かっこの情勢にも関係あるのでしょうか、こんな問題をメクスロミミが取り上げないのは本当に許せません。一日も早く釈放されることを心から願っています」「などの声が聞かれました。

↑星野文昭さんの獄中絵画から『パレスチナー—嘆きを力にかけて未来を!』



◆ 百万人署名で早期釈放をめす

来場者を案内していた実行委員会の男性は「今回こうした開放的な場所で開催することで、これまでとは違う層にも見て頂き、新鮮な感想・意見を聞くことができました。政治的なメッセージには一定の制限が掛かるなど、これまでになく制約も感じましたが、今後はこうした場も利用して、さらに積極的「訴え」をききたい。」

また協賛団体の男性は「支援者の中には星野さんの絵を年パスにするなど色々な特技を持っている人がおり、それらを活かしながら『証拠開示・再審開始百万人署名』の取り組みを

何としても成功させ、星野さんの早期釈放を闘い取りたい」と話していました。

星野さんを取り戻そう！全国再審連絡会議  
〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1  
六石ビル四階 ☎03-3591-1824  
FAX03-3591-1826 「メール」  
aquu2cdgg@dream.ocn.ne.  
jp [URL] http://fhoshino.net/ja/

『愛と革命』 獄中結婚した星野文昭・暁子夫妻の闘いの軌跡を、文昭さんの絵や手紙、妻の詩や手記、支援者の声などで綴った、感動の書。A5判・二四頁、一八〇〇円十税。注文先は星野さんを取り戻そう！全国再審連絡会議。

無実で39年  
獄壁こえた  
愛と革命  
星野文昭・暁子の闘い  
検察官は、徹底的に嘘つきだ!!  
証書をでっち上げ、無実の証偽を隠して、冤罪を作る。一度犯人だと決めつけられたら、何でも行う。ここにもある真実を求める長い闘い！夫婦愛！知らないことが警察と検察の犯罪行為を許すのだ！  
一 桜井昌司  
元和川事件再審請求人、星野文昭、手紙送附担当者  
発行：『愛と革命』の会（星野文昭・暁子） 全国再審連絡会議

# 楽しみながら福祉学ぶ

## 「ふれあい福祉のひろば」大活況



→楽しみながら福祉を学べる企画に笑顔が溢れた「みなとふれあい福祉のひろば」＝三月七日、港区民センター(写真はロビーでのバザー)

「楽しみながら福祉を身近に考えよう」と三月七日(土)、港区民センターで「みなとふれあい福祉のひろば」が開催されました。区内の諸団体から成る実行委員会の主催で九回目。十時から十五時まで、悪天候の中を多数が来場し、工夫を凝らした楽しく温かな内容に、笑顔と熱気が溢れました。

### ◆ 舞台に拍手、展示に人だかり

舞台では港南中学校吹奏楽部の演奏を皮切りに、障害者作業所の和太鼓演奏や創作ダンス、手話サークルの手話劇、ティサービスセンターの歌、老人福祉センターの歌謡ショー、そのほか様々なグループによるエイサー、歌体操などが次々と登場。最後は全員参加の河内音頭で盛り上がりました。どの出し物にも盛んな拍手と声援が送られました。

またホールやロビーでは高齢者や障害者の作品バザー、高齢者デイセンターの作品展示、手話サークルによる手話体験、図書館による本のバザール、そのほか様々な団体による遊びや学びや健康や飲食のコーナーにも人だかりができていました。来場者の談笑、バザーの呼び込み、

「声援が飛んだ手話サークル「みなと」の手話劇」と、来場者とのやり取りに活気があった「手と手とハウス」のバザー



当番の交替、飲食席の入れ替わり…そんな賑わいの中で、脳トレーニングに挑む高齢者の真剣な表情や、途中でくたびれたのが、分からなくなつたのが、用紙から目を離してきよきよする姿には、思わず笑いが込み上げました。

### ◆ 「出歩くのが大好き」と言う女性

来場者のうち、昼休みに喫茶コーナーで手引き者と一緒に休憩していた六田壽美子さん(六二)は言う。波除の「手と手とハウス」(NPO 法人大阪盲ろう者友の会)が運営する施設に通って一年半。この催しには「一回目の参加です。生まれた時から目も耳も障害があり、左目

は全く見えず、右目のみ〇〇四つむずかに見えます。学校に通っている時、『補聴器を着けなさい』と言われて着けましたが、雑音も一緒に入ってしまうくらい、今は着けていません。訓練で段々と「コミュニケーションがとれるようになりまし

た。手と手とハウスは月に十日ほど利用しています。もしも「買い物やお祭りなど色々な所へ出歩くのが好きで、長居スポーツセンターでは卓球やボーリングを楽しみ、ライトハウスでも視覚障害者の人たちと交流しています。京都府亀岡市で四人兄弟姉妹の三番目に生まれ、兄と姉と弟がいます。一昨年に大阪市生野区に引っ



→港区デイ事業者連絡会による作品展示。上は

さくらデイサービスセンター、下は通所介護

アイシティ利用者の力作に見入る来場者

越して来ましたが、時々亀岡へ戻ってお祭りなどに参加しています。この催しは色々なコーナーがあり、人もたくさん集まっているので大好きです。もつすばバザーの当番なので、行かなくてはなりません。これからも色々な楽しみを見つけて生きていきたいと思っています。

そのそばで手引き者の女性（五六）＝泉佐野市在住＝は「府の盲ろう者支援ボランティア養成講座を受けて活動するようになり、二年目でパートで仕事しながら、四人の盲ろう者を受け持っています。お世話して思うことの一つは、歩道の通りにくさです。幅が十分でないので、自転車に何度ぶつけられそうになったことか。それに段差も気になりますね」と話していました。

◆「健康第一で楽しみたい」と七十代女性

同じく昼休みに喫茶コーナーで知り合いの五十代女性と一緒に休憩していた大背戸和子さん（七二）＝八幡屋在住＝は「この催しは人がたくさん集まって活気があり、安い料金で食べたり飲んだりでき、舞台の出し物も毎年入れ替わって演じられるので、とても楽しみです。主人を

「間違いない探」などの脳トレーニングに挑む高齢女性（上）、ランプの点いたモグラを素早く叩いて敏捷性を測るゲームに挑む女性（下）



二十数年前に亡くなりましたが、一人だから却って気楽に色々なことができています。老人福祉センターなどで歌体操やスワロビクスをして十年。途中で二年ほど膝の不具合で中断しましたが、戻って来てと言われて復帰しました。銭太鼓もやっていました。朝八時と六時半から八幡屋公園でやっているラジオ体操にも参加しています。これからも健康第一で、特に手足を大切にしながら、色々な活動を楽しんでいきたいと思っています」と話していました。

◆「毎日が戦争」と知的障害の息子を持つ夫婦

また昼休みに知的障害の息子さん（一八）と一

緒にホールで休憩していた五十代と六十代の夫婦(夕凧在住)は「息子は港育(せいこう)成園(せいえん)(波除)に通(かよ)っていました。在園が五年と制限されていた時

だったので、卒業してから此花区(このはな)の障害者作業所に通(かよ)っています。九時半にバスで迎えに来てもらい、簡単な部(ぶ)品(ひん)加工(かこう)や製造(せいぞう)の仕事(しごと)をして、

午後三時過ぎに戻(かへ)ってきますが、それからが戦(いくさ)争(そう)です。簡単なバスル(バスル)などには興味(きょうみ)を示(し)し、楽しんでいますが、何が(なに)できる(できる)のか、得意(とくい)なのか、見(み)つけてや(や)わ(わ)て(て)い(い)ま(ま)せ(せ)ん。買(か)い(い)物(ぶつ)も計(けい)算(ざん)もでき

ず、生活(せいか)の全(ぜん)てに二十四時(じゅうにじゅうよ)間の介(かい)助(すけ)が必要(ひつや)で、最(さい)重(じゅう)度(ど)の障(しょう)害(がい)だと思(おも)っ(っ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)が、認(にん)定(てい)がだん



→アロマハンドマッサージに気持ちよそそつな女性(じょせい)たち(ち)と、なかむら鍼灸(しんきゅう)整骨院(せいこつゐん)から首(くび)肩(かた)のマッ(マッ)サ(サ)ー(サー)ジ(ジ)を(を)受(う)け(け)て(て)こ(こ)機(き)嫌(けん)の高(たか)齢(れい)女(にょ)性(せい)①②

だん厳(げん)しくな(な)り、そのよ(よ)う(う)に認(にん)定(てい)し(し)て(て)も(も)ら(ら)え(え)ま(ま)せ(せ)ん。実(じつ)態(たい)に合(あ)わ(わ)せ(せ)た(た)認(にん)定(てい)を(を)し(し)、一(ひと)人(ひと)ひ(ひ)ど(ど)り(り)に合(あ)わ(わ)せ(せ)た(た)支(し)援(えん)を(を)し(し)て(て)ほ(ほ)しい(い)と願(ねが)っ(っ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)が、

『サービ(サービ)スを自(み)由(ゆう)に選(えら)ぶ(ぶ)』と(と)い(い)つ(つ)謳(うた)い(い)文(ぶん)句(く)で自(み)立(た)支(し)援(えん)法(ぽう)が(が)でき(き)こ(こ)ら(ら)却(かえ)っ(っ)て(て)し(し)ん(しん)ど(ど)く(く)な(な)つ(つ)た(た)よ(よ)う(う)に思(おも)い(い)ま(ま)す(す)。こ(こ)の(この)催(か)い(い)には(は)ず(ず)っ(っ)つ(つ)と(と)参(ま)加(か)し

て(て)い(い)ま(ま)す(す)が、と(と)も(も)楽(らく)しく温(ぬ)か(か)く、息(いき)子(こ)は舞(ま)い(い)台(だい)を(を)見(み)た(た)り(り)し(し)て(て)何(なに)か(か)を(を)感(かん)じ(じ)て(て)い(い)る(る)か(か)も(も)し(し)れ(れ)ま(ま)せ(せ)ん。で(で)も(も)体(てい)が(が)元(げん)気(き)な(な)だ(だ)け(け)に、周(しゅう)りに迷(まよ)惑(わく)を(を)か(か)け(け)な(な)い

か(か)と(と)気(き)を(を)使(つか)い(い)ま(ま)す(す)。親(おや)な(な)も(も)あ(あ)つ(つ)く(く)周(しゅう)圍(い)に支(し)え(え)ら(ら)れ(れ)な(な)が(が)ら(ら)生(な)き(き)て(て)い(い)っ(っ)て(て)ほ(ほ)しい(い)と願(ねが)っ(っ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)が、就(しゅう)労(らう)は(は)絶(ぜつ)対(たい)に無(む)理(り)で(で)す(す)か(か)ら、最(さい)後(ご)は(は)や(や)ほ(ほ)り(り)グル

ー(ー)ホ(ホ)ム(ム)か施(せ)設(せつ)入(にゅう)所(じょ)に(に)な(な)る(る)で(で)し(し)よう(よう)ね。こ(こ)う(う)い(い)つ(つ)面(めん)で(で)も(も)国(くに)の支(し)援(えん)が(が)あ(あ)れ(れ)ば(ば)助(すけ)か(か)る(る)の(の)で(で)す(す)が(が)「…と話(わ)っ(っ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。

◆小規模(せうぎぼ)作(さく)業(ぎやう)所(じょ)が(が)連(れん)携(けい)

な(な)お、実(じつ)行(こう)委(い)員(いん)会(かい)メ(メ)ン(メン)バ(バ)ー(ー)で(で)も(も)あ(あ)る(る)港(こう)区(く)障(しょう)害(がい)者(者)施(せ)設(せつ)連(れん)絡(らく)会(かい)愛(あい)称(しょう)「ポ(ポ)ー(ー)ト(ト)ネ(ネ)ッ(ッ)ト(ト)」は、港(こう)区(く)内(ない)に(に)あ(あ)る(る)心(こころ)身(み)に障(しょう)害(がい)を(を)持(も)つ(つ)人(ひと)た(た)ち(ち)の働(はたら)く場(ば)・社(しゃ)会(かい)参(ま)加(か)の場(ば)で(で)あ(あ)る(る)小(せう)規(ぎ)模(ぼ)作(さく)業(ぎやう)所(じょ)の集(あ)ま(あ)り(り)。一(いっ)〇〇(〇〇)三(さん)年(ねん)三(さん)月(げつ)の「第(だい)一(いち)回(かい)な(な)く(く)福(ふ)祉(し)の(の)ひ(ひ)ろ(ろ)ば(ば)」(ひ)み(み)な(な)ご(ご)ふ(ふ)れ(れ)あ(あ)い(い)福(ふ)祉(し)の(の)ひ(ひ)ろ(ろ)ば(ば)」の(の)前(まへ)身(み)を(を)き(き)っ(っ)か(か)け

「ボランティアグル(ボランティアグル)ープ(ープ)「ゆうゆうク(ゆうゆうク)ラブ(ラブ)」の(の)バル(バル)ーン(ーン)ア(ア)ー(ー)ト(ト)コ(コ)ー(ー)ナ(ナ)ー(ー)①②や、ミ(ミ)ニ(ニ)ブ(ブ)ラ(ラ)レ(レ)ー(ー)ル(ル)コ(コ)ー(ー)ナ(ナ)ー(ー)③には子(こ)供(ども)た(た)ち(ち)が(が)群(ぐん)が(が)つ(つ)た



に生(な)ま(ま)れ(れ)ま(ま)し(し)た(た)。現(げん)在(ざい)、あ(あ)ゆ(ゆ)み(み)作(さく)業(ぎやう)所(じょ)、グ(グ)リー(リー)ン(ン)ズ(ズ)、グ(グ)リー(リー)ン(ン)ズ(ズ)ロ(ロ)、マ(マ)ー(マー)ガ(ガ)レ(レ)ッ(ッ)ト(ト)工(こう)房(ぼう)ふ(ふ)ら(ら)つ(つ)と、港(こう)ひ(ひ)かり(かり)作(さく)業(ぎやう)所(じょ)、ワ(ワ)ー(ワー)ク(ク)み(み)な(な)と、ゆ(ゆ)う(う)ゆ(ゆ)う(う)美(み)波(な)途(と)④、手(て)と手(て)とハ(ハ)ウ(ウ)ス(ス)、ナ(ナ)ポ(ポ)レ(レ)オ(オ)ン(ン)フ(フ)ィ(ィ)ッ(ッ)シ(シ)ュー(ュー)の(の)十(じゅう)作(さく)業(ぎやう)所(じょ)と障(しょう)が(が)い(い)児(に)児(に)学(がく)童(どう)保(ほ)育(いく)所(じょ)「か(か)も(も)め(め)ク(ク)ラ(ラ)ブ(ブ)」が(が)加(か)入(にゅう)。「障(しょう)害(がい)を(を)持(も)つ(つ)人(ひと)た(た)ち(ち)が、住(す)み慣(な)れた(れた)地(ち)域(いき)で(で)安(やす)心(しん)し(し)て(て)喜(よろこ)び(び)ら(ら)し(し)て(て)い(い)ける(ける)よ(よ)う(う)に」(に)と(と)連(れん)携(けい)し、ま(ま)た(た)自(み)立(た)支(し)援(えん)作(さく)業(ぎやう)所(じょ)の製(せい)作(さく)・販(はん)売(ばい)や下(か)請(けい)け(け)作(さく)業(ぎやう)の受(うけ)注(ちゅう)な(な)ど、様(よう)々(ざ)な(な)な(な)な(な)夫(つま)を(を)重(おも)ね(ね)な(な)が(が)ら(ら)活(かつ)動(どう)を(を)続(つづ)け(け)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。問(と)い(い)合(あ)わ(わ)せ(せ)ば(ば)ワ(ワ)ー(ワー)ク(ク)み(み)な(な)と(と)夕(ゆ)凧(たか)⑤⑥六(ろく)五(ご)七(しち)一(いち)・七(なな)五(ご)二(に)一(いち)、F(エフ)A(エー)X(エックス)六(ろく)五(ご)五(ご)六(ろく)・九(きゅう)〇(じゅう)ま(ま)で(で)。

# 猫ふやさを共存を！

## フリマで「町猫」よびかけ



→「野良猫をふやさず、地域で共存できるよよう行動しよう」と呼びかけ、多くの協力者で賑わった「町猫フリマ」は三月二十八日、天保山公園

「野良猫をふやさず、地域で共存できるよよう行動しよう」と呼びかけるフリーマーケットが三月二十八日（土）に天保山公園で開催され、賑わいました。主催は「築港町猫倶楽部」。

同倶楽部は一昨年末、野良猫保護を続ける個人の自由な集まりの場として発足。不用意な餌やりによる異常繁殖と環境汚染、地域の苦情、その二方面での保健所による殺処分（せつじふ）に心を痛め、

①地域の野良猫（町猫）の不妊・去勢手術を普及する②町猫の一代限り・一生の保護・管理を行なう③町猫の老えを広める一を目的として、主に築港で活動。昨年は八十二匹を捕獲・手術すると共に、放置工サバつけと合わせてゴミ拾いも続けるなど、地域の美化にも貢献しています。

資金は寄付やイベント収入でまかない、この日は五回目のフリマ。花見などで賑わう同公園の入り口で朝から夕方まで開催。地域の人々や観光客が呼びかけに足を止め、手渡された「町猫ハンフレット」に目を通して、衣類や本、お菓子や雑貨へ盛んに手を伸ばしていました。

● 皆が気持ち良く生きられる地域へ

同倶楽部の呼びかけ人である西浦雅子さん

（築港）天保山公園で「公園ねこサポーター」（野良猫をふやさないよよう適切な餌やりや不妊・去勢手術を行なう市公認ボランティア）として活動する尾崎妃努さん（池島）、猫リスト作成などの実務や広報を担当する止岡智美さん（築港）らは「人も動物も、猫好きな人もそうでない人も、みんなが気持ち良く生きられる地域になるよよう、これからも『町猫』の老えと行動を広げていきたい」と意欲を見せていました。

● 活動仲間や里親の募集も

同倶楽部では毎月第一水曜十九〜二十一日に定例会合（場所はその場で）、毎月第四土曜十一時から定例イベント（中止あり、場所はその場で）。また不妊去勢手術の実施状況や会計報告を含むニュースを定期発行し、フェイスブック「築港町猫倶楽部」で情報発信すると共に、活動仲間や里親の募集も呼びかけています。

同倶楽部のホームページは <http://ameblo.jp/chikikoneko> のブログ。メールは [chikikoko@kocoo.co.jp](mailto:chikikoko@kocoo.co.jp)。電話は 〇五〇・一五八△三二・一五〇七三（録音専用）。

# 子供の歓声 内に外に

「スポみど」「パラメニューわんさ



→子供たちの笑顔が溢れた三月下旬の港区。写真は「八幡屋公園 スポミどりフェスティバル」で大人気だったS.Lトレインの疾走

三月下旬に開かれた二つの催しに区内外から多くの家族連れが訪れ、盛り沢山なメニューに、館内で野外で、子供たちの歓声が響きました。

● スポミどりのフェスティバル

このうち二十九日(日)に八幡屋公園で開かれた「スポミどりフェスティバル」(スポーツパーク八幡屋活性化グループ主催)では、生憎の雨の中、アトラクションパスポート(一人五百円)を手にした参加者が、中央体育館や大阪プールで、弓道、スポーツチャンバラ、カーリング、お菓子計量、自然工作、ポニー乗馬、S.L乗車など普段できない遊びを楽しんでいました。市岡元町から四歳と二歳男児を連れて参加した夫妻は「バスポートでほんこの遊びができて、良い経験をさせてくれました。元は充分取れましたね笑」と満足そうでした。

● こどもパラダイス

一方、三月二十日(日)に港区民センターで開かれた「こどもパラダイス」(大阪市「ミニコミュニティ協会港区支部協議会」を主催、八回目)では「こども民謡やこども落語などの舞台発表、ダンボール迷路、等身大スノコウ、ぶんぶん「マな

←熱気溢れた「こどもパラダイス」。上はこども向け囲碁、下はアクロバットショー



ど体や頭や心を使う遊びに子供たちが群がっていました。築港から三児を連れて参加した磯中亮志さん(三九)は「母が女性会などの活動をしている関係で毎年参加しています。無料や低料金で色々な遊びが楽しめ、特に私たちの世代もやらなくなった昔ながらの健全な遊びを高齢者が今に伝えようとしてされているのが素晴らしいです。お世話をされる方々の大変さにも頭が下がります。これからも参加したいと思っています」。そのほか優勝(優勝)は「スーパーボールを四十九個おすくえん」と、紫乃ちゃん(七)と翔太くん(三)は「バールンアートが楽しかった」と満足そうでした。

# 露店が一杯並ぶで！

## 「繁栄ワイワイ市場」オープン



→ 個性的な露店がいっぱい並んだ「繁栄ワイワイ市場」(写真は「アロマのお店」による)「バスソルト手づくり体験」 〓 三月二十二日

「商店街に楽しい露店が一杯並ぶよー！」

「繁栄ワイワイ市場」と名付けたユニークなイベントが繁栄商店街にオープンし、注目を集めています。各地で個別に活動している様々な職種(業者)一堂に集まることもこの通じて業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす初の試み。三月二十日(日)にプレオープン、四月四日(土)に第一回が行なわれました。

西口には、唐揚げ、野菜、手作り小物、占い、和菓子、布小物、雑貨、惣菜、さおり織など十数店が並び、多くの来場者で賑わいました。

### ● 「これからも参加したい」と出店者

「このうち女の子たちが群がっていたのは、筆ペンでメッセージカードを作る「藝めぐ書道場」。主宰の吉田琴美さんは「普段は大阪市や吹田市を中心に、商店など色々な場所に出向いて、筆ペンでメッセージカードを作る楽しさを広げる活動をしています。ちょっとした「ツ」をアドバイスすることで、その人の個性を生かした自分だけのカードが作れます。この催しは、私たちのような活動を広くアピールする場になり、商店街の活性化にも役立つ、とても素晴らしい

← 女の子が真剣な表情で挑戦していた「さをり織」

①と、笑顔での対話が印象的だった「タロット占い・手相占い」② 四月四日



しい企画。定期開催されるようになっています。これからも参加するつもりです。

また年配女性たちがしきりに品定めしていたのは着物のリメイク「和鈴」。店主の谷口和家さん(女性)は「明治・大正や昭和初期の着物をほどこき、汚れを洗い流してアイロンがけて一枚の布に生まれ変わらせ、ポーチや巾着、バッグや小物を作っています。普段は個人宅を借りて展示・販売していますが、こんな人通りのある所に出せて、嬉しいですよ」と話していました。

「繁栄ワイワイ市場」は毎月第一土曜日から十六時開催。 ☎ 六五八二一〇三三六 繁栄商店街。

# 滑走の楽しさを広げよう

## スケートサークルが発表会



→氷上の滑走の楽しさを感じさせてくれた「NICスケートフェスタ」(写真は最後に飾ったフォークダンス) 三月十四日、大阪ブルー

「滑走の楽しさを広げよう」とアイススケート愛好者に多くのイベント「NICスケートフェスタ」が三月十四日夜、大阪ブルー(田中)で開催されました。港区民も参加するNIC(なんば)アイススケートサークルの主催で四回目。

開会式では会長の新家正信さん(七四)市岡在住、経営「インサルタント業」が挨拶に立ち、「日頃の練習の成果を發揮しながら、年一度のお祭りを楽しみましょう」と呼びかけました。

### ★ワルツやタンゴに乗って

このあとオープニングのフリー滑走に続いてアイスダンスのペア九組とシングル演技の十二人が、ワルツ、タンゴ、スイング、チャチャヤ、ウィローなど様々なリズムに乗って次々と練習の成果を披露しました。

中でも初回から四たび続けて羽織袴と扇子の和装で登場し、『白雲の城』(氷川きよし)の爽快な歌唱に乗せて、若柳流日本舞踊を披露した新家会長の演技には、その大胆さと意外性また年々向上する所作の滑りかき、さらには風格さえ漂わせる存在感に、観客から大きなよめぎと拍手が起りました。

「和装で日舞という大胆さと意外性にどよめき

が起った新家正信さんの「白雲の城」(上)、

妖精を思わせる流麗なスケートティングがため

息を誘った中野澄恵さんの「風の詞」(下)



またゲストとして初登場の中一少少女八人グループシルバーフェアリーズの集団演技小さなプリンセスソフィアは、心から滑走を楽しみ伸び伸びしたスケートティングと自在に氷上を舞う姿が銀盤の妖精を思わせました。

### ★アットホームな雰囲気

スケートティングの技量は様々ながら、どの演技者も、滑走の爽快感と注目される歓びに溢れた爽やかな笑顔が印象的でした。また、ぎこちない滑りや転倒にも平然と演技を続ける表情の明るさや、「がんばれー」とエールを送る仲間の声の温かさからは、同サークルのアットホームな雰囲気が伝わってきました。

フィナーレは一般参加者も加わって恒例の氷

上フオークダンス。全員が輪になり、藤本泰司実行委員長（N・I・C顧問）の指導で振り付けを練習し、すべに本番。「オウノホマ・ミクサー」の懐かしくも軽快なメロディに笑顔がこぼれる和やかな雰囲気の中、お開きとなりました。

★「氷見たら楽しい」と七十代女性

出場者のうち「フエスタタンゴ」の曲に乗り、新家会長との息もぴったりに滑らかなアイスダンスを披露して喝采を浴びていた西山泰子さん（七七）＝兵庫県三田市在住＝は「N・I・C」は六年前に入会しました。アイススケートは四十年代から約三十年、パート仕事や二人の子育て



→ほのぼのムードに拍手が沸いた西山泰子！新家正信。ペアの「フエスタタンゴ」Ⓢと童話の世界を楽しげに表現して感嘆を誘った加藤岬・岡松秀明。ペアの「フィクサーアップ」

をしながら、レディス教室などあちこちで楽しんできました。とにかく氷を見たら楽しくて仕方ありません。難しいのは、二十、三十あるステップを「ちや混ぜ」にならないよう覚えること。また、たまにやるアイスダンスでは、ストロークが様々な相方とターンを合わせるのが難しいですね。これからも無理せず楽しく滑り続けたいと思っています」と話していました。

★「日常と違う世界」と六十代男性

また「スローチャチャチャ」の曲に乗り、長瀬まさ子さんとのペアで、かみしめるように丁寧なアイスダンスを披露して拍手を浴びていた江田昌平さん（六六）＝浪速区在住＝は「スケート歴は二十七年。N・I・C発足からのメンバーです。今日は家族も応援に来てくれました。スケートの魅力は日常と違う世界に入れること。難しいのは余計なことを考えたり余計な力を入れたりせず自然に滑ることですね。アイスダンスは定年退職後に始めましたが、常に相方のことを考え、特に女性を主役にして滑るのが楽しい所でもあり難しい所でもあります。これからも楽しく続けていきたいです」と話していました。

「丁寧なスケータイングが好評を博した長瀬まさ子・江田昌平。ペアの「スローチャチャチャ」Ⓢと、きらきらと可憐な滑走のため息がこぼれたシルバーフェアリーズの集団演舞Ⓣ



★スポーツ環境向上の活動も

N・I・Cは「アイススケートの楽しさを多くの人に」との目的で二〇一〇年五月に発足。府下在住を中心とする千代と八十代の男女約七十名が在籍。会員のスケート歴は初心者から数十年のベテランまで様々。毎週、中央区難波の「なにわスケートリンク」で練習を重ねると共に、練習環境の改善を求めてリンクの管理者である大阪市に様々な申し入れを行なうなど、市民のスポーツ環境向上のためにも活動しています。問い合わせは☎〇九〇・三三八・二二一四三五 新家会長まで。

# 学びの花が満開！

## 「春のセンターまつり」賑わっ



→にぎわった弁天町ORC200生涯学習センター「春のセンターまつり」(写真は「尺八の広場」による『鼎』『古城』などの演奏)

弁天町ORC200生涯学習センター(弁天一丁目)のオーケストラ番街の七階で活動するグループが日頃の成果を発表する「春のセンターまつり」が今年も三月五日から十五日まで開催されました。市政改革による昨年三月末の旧「弁天町市民学習センター」廃館↓民設民営化→五月一日リニオナルオープンを経て最初のビッグイベントとごいそいで、会場には再生の息吹が溢れていました。主催は同センターと春のセンターまつり実行委員会。

### ●あゆむ分野の展示・体験・舞踊

会期を通じて行なわれた「作品展示」では、押し花、絵画、絵手紙、篆刻、似顔絵、写真、日本画、川柳などエニグループによる展示が行なわれ、来場者が作品に顔を近づけたり、創作法を熱心に質問したりする光景が見られました。一回いへく会期を通じて開かれた「一口体験教室」や十五、六日にロビーで開かれた「実演&体験」には、体操、油絵、中国語会話、押し花、紙芝居、朗読、民謡、太極拳などあらゆる分野に及ぶ三十七の教室が参加し、興味を抱いて訪れた市民に担当者が丁寧に手解きしていました。

←「作品展示」コーナーで「絵手紙」①や「海外鉄道写真」②を鑑賞する来場者



四日目の「ときめきステージ」では、大正舞、喜劇、オカリナ、リコーダー、三線などエニグループが次々と登場。発表の緊張と歓びに溢れた舞台上に盛んな拍手が送られていました。

また期間中の昼休みにはロビーで「気まぐれ♪ロビーライブ」と題した無料演奏会が開かれ、尺八、紙芝居、民謡などが披露されました。

### ●「尺八」の魅力を語る八代男性

このうち四日目の舞台発表で『鼎』『古城』などを演奏。洋楽では一味も一味も違う音程が郷愁を誘い、会場からいいえの声や唱和が起っていたのは「尺八の広場」。「日本の伝統文化を継承しよう」と2003年に発足。重

唱歌から歌謡曲まで演奏の幅を広げています。

演奏後、伊吹英治さん(六三)＝阿倍野区＝は「邦楽は学生時代にやっていたんですが、三年前にこの会に入ってから再開しました。尺八はフルー

トと似ていますが、フルートの単音に対し、尺八は複音(ふくおん)として、より複雑な音が出ます。竹筒の表に穴が四つ、裏に二つ、シンプルですが、これを全部使いこなせば全ての音が出せ、あらゆる音楽が演奏できます。そんな楽しみを自分

たちだけでなく多くの人に広げようとして続けています。会員は市内で七十人ほど、うち数人がこ



→『青春時代』の若々しい歌唱に手拍子が起った「コロンの音楽教室」(上)と、『花は咲く』の温かく柔らかな動きと表情が感動を呼んだ「シニアのためのやわらかいユー・aの会」(下)

のセンターのグループです。介護施設を訪問し、懐かしい歌謡曲などを演奏する、とても喜ばれます。また、こつとした発表の場がある、とても励みになります。それと、仲間とお酒を飲みながら色々と語り合える人間関係も、続けている理由の一つです」と話していました。

●「鉄道写真」の魅力を語る六十年代男性

また、作品展示コーナーで、鉄道への愛着溢れる写真の数々が注目を集めていたのは「海外鉄道研究会」。会員は全国で約三百人。大阪ではこのセンターなどで約二十人が交流。ドイツ、インドなど、各人が得意とする分野の写真を持ち寄り、持ち寄っては刺激し合っています。

案内していた花谷好隆さん(八二)＝堺市＝は「元々鉄道模型が好きで、そこから写真にも広げ、海外鉄道撮影歴は約二十年。この会には十年前に入りました。楽しみ方はそれぞれですが、私はやはり現地で実際に乗ったりして体で味わったものを写真に残るのが楽しいです。この写真(スライス)の八年十月に撮った『トップ・オブ・ヨーロッパにつながる鉄道』は、もし好天で空が青ければもっと良かった」と話します。



←鉄道への愛着が表われた「海外鉄道研究会」の展示から「なつかしい阪堺電車」(上)と「トップ・オブ・ヨーロッパにつながる鉄道」(部分) (下)

が、曇りだったが故に背景の山岳(アイガー・メジ)・ノンクングラウの陰影がほどよく、手前の車両が浮き立って、これはこれで良かったと振り返っています。「なつかしい話」していました。

●「変わらぬ利用のいい」と菱岡所長の

また、旧・弁天町市民学習センターで五年、昨春のリニューアル後も引き続き運営に携わってきた菱岡省「所長(菱岡省)スタッフは、「リニューアル後初めての『センターまつり』でしたが、以前に勝る(勝)とも劣らぬ賑わいで、市民の皆さん(皆さん)のセンターへの変わらぬ思いを感じ、本当に嬉(うれ)しく思っています」と話していました。

# バラエティ豊かな演目

## 雨つき「なみいちまつり」熱気



→多彩な演目で賑わった「なみいちまつり」。雨  
をついて地域の人々がカラオケなどを楽しん  
だ。三月二十九日(写真は「よさこいソーラン」)

バラエティ豊かな出し物にやんやの声援。

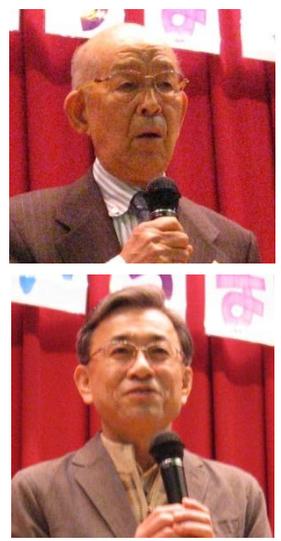
三月二十九日(日)に波除小学校で開かれた波  
除市岡元町地域の文化行事「なみいちまつ  
り」には雨をついて大勢の地域住民が集い、カ  
ラオケなどを楽しみました。波除地域活動協議  
会(地活協)の主催、同地域の各種団体の共催、  
同地域の振興町会連合会の協力で二回目。

プログラムは一部に分けて行なわれ、朝十時  
からの「子ども部門」では「妖怪体操」のDVD  
上映や「みんながよさこい」ジャンケンチャ  
ンピオン」が、午後の「大人部門」ではカラオ  
ケを中心に多彩な演目が舞台を賑わしました。

### ●カラオケ中心に十五組が出演

このうち大人部門は高城治子さんの司会で進  
行。開会式では藤本弘・波除地活協会長が「地  
域の諸団体の日頃の活動に敬意を表したい。去  
年の反省を踏まえて審査などを改善を加えた。  
色々な出し物を楽しんでほしい」と、田端尚伸港  
区長が「地活協は色々な地域団体が集まり、共  
通する内容で一緒に活動する組織。区役所もそ  
の連携の輪に加わりたい。こつた催しを通じ  
て元気で明るい地域に」と呼びかけました。

←開会式で挨拶する藤本会長(上)と田端区長(下)



出演者は、事前インタビューに基づき司会者  
の簡潔なプロフィール紹介を受けてさつこつと登  
場。OSAKAみなとメチャハピ隊による元  
気溢れるよさこいソーラン『天真爛漫』を皮切  
りに、数井清澄さんの『会津の小鉄』、灰本勝子  
さんの『滝桜』などカラオケ八組、大杉加代さ  
んの新舞踊『風の盆恋歌』、カウルヴェヒのフ  
ラダンス『クワホア』『レイピカケ』、波除三郎  
さんのマジック、三女性によるダンスと続き、  
地元の若手漫才「コンビ」組がプロの笑いで全十  
五組のトリをつとめました。

### ●安川さんが「代目チャンピオン」

このあとの表彰式では、カラオケ部門では  
『王将一代 小春しぐれ』の情感溢れる歌唱で驚  
異の九十八点を叩き出した安川桂一さんが優

勝『男の意地』の切れのある歌いぶりです。九

十一点を獲得した押地保雄さんが準優勝、『北の漁場』の迫力ある歌唱で八十八点をマークした

大川まさるさんがソロ目賞。全演目を通じて

は、『桜の木になろう』で見事なハーモニを聴

かせた中「コンピン」藤彩華・竹内未来さんと

『レインボーエール』で息の合ったダンス&ホ

ーカルの披露した十代女性トリオ(仲嶺ゆ・仲

嶺あ・東元さん)に特別賞、『ゲゲゲの鬼太郎』

の可愛い衣装と歌いぶりが歓声を誘った高橋

海洋くん(スタッフ特別賞)が、それぞれ贈られ

盛大な拍手を浴びました。最後は抽選会で再び

の盛り上がりのうちにお開きとなりました。

終了後、初めて参加したといつ六十代男性は



→『ゲゲゲの鬼太郎』を歌う高橋海洋くん(上)と、『会津の小鉄』を歌う敷井清澄さん(下)

⑦

「雨をものともしない出演者の熱演と会場の熱

気に元気づけられました。歌や踊りだけでなく、

マジックなど個性的な出し物を組み入れたこと

ろに主催者の苦心が感じられました。司会者が

出演者のプロフィールを手短かに紹介されていた

のも、演者への親しみを一層感じさせてくれて

良かったと思います。

● 地活協が一つになって開催

波除地活協の役員として準備に携わった和田

弘さん(上)によると、「この催しは昨年、そ

れまで別々に活動していた福祉・防災など四つ

の部会が「いっぺんに」にまとまって何かやら

うや」「いっせやるなら、人気のあるカラオケを

中心に、子供からお年寄りのまで皆が楽しめるパ

ラエティ豊かなプログラムを」と相談してスタ

ート。お互い手探りで準備を進めていく中で、

それまで役員クラス間の交流しかなかったのが、

部会や世代を越えての顔合わせにまで発展する

成果も得られたといえます。

そうして迎えた第三回。前日の午後三時から

会場設置にかなり、夜には出演者リハーサルと

→『風の盆恋歌』を踊る大杉加代さん(上)と、『男

の意地』を歌う押地保雄さん(下)



「トイレにも行けない」という職員負担や、

人による採点の曖昧さを解消するために、機械

採点を採用するなどの改善を加えた結果、出演

者にも参加者にも概ね好評を博しました。ま

た福祉部会のおはぎが大好評で、用意した百個

は開会で同時に全てなくなりました。

和田さんは「回覧板やポスターによる告知が

不十分だったことなど、反省点もたくさんあり

ますが、雨の中、大勢の皆様にご参加頂いて

ホッとします。今後はほっとして参加頂い

た方たちが「いい」の催しの面白さを広げて

頂くことに期待しながら、さらに改良を加え

来年へつなげていきたいと考えています」と話

# 夫婦の情の機微描く

あんがいおまる一座『情の涙華』



→花魁を主人公に、夫婦の情愛の機微を温かく  
しっとりと描いたあんがいおまる一座『情の  
涙華』＝三月上旬、波除の石炭倉庫で

花魁を主人公にした人情時代劇『情の涙華』が三月上旬、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、好評を博しました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいおまる一座のスタジオ公演。あんがいおまる座長が脚本・演出。一座の主力女優ゆうこさんと主力男優ヨシシ原本さんが主演、河野明夫さんの三味線が舞台に江戸情緒を添えました。

◆ 色街を舞台に夫婦の浮き沈み  
——江戸時代の色街。年増だが人気の花魁・華奴と密引きの若い衆・牛太郎が恋に落ち、廓主人の情ある計らいで所帯を持つ。しばらくは一人組んでのちよつと強引な商売も功を奏して暮らしては落ち着くが、それをいいことに牛太郎は博打に手を染め、家内はすつからかん。貧すれば鈍すで、こつこつと蹴籠という最下級の相場でもわいせつ密引きを始める。が、その客となった左官職人は華奴にぞっこん、夫婦の契りを交わすまでに。思惑通りの展開ながら、焦る牛太郎。不思議がる華奴。「あんた焼き餅やいてんの?」「そんなんじゃないや。けどこんなの

「きわどい色仕事を始めたものよ、やがて夫婦の初心にかえる華奴と牛太郎」



とはやめたい!」。やがて夫婦の初心に帰り、まともな仕事での再起を誓つ二人であった。

◆ ほんのり温かな気分  
全体として、時に拗ね合ったり罵り合ったりしながらも、心底では信頼し合う夫婦の何ともいえぬしっとり感が、これといった事件もない筋書きを通して表現され、ほんのり温かな気分させてくれました。また随所に挟まれた「お茶を挽く」「客がなくな暇なこと」「証文を巻く」「前借の残を棒引きする」など独特の廓言葉や廓風俗の再現は、脚本作りに際しての綿密な時代考証を感じさせ、語り手が物語へ入り込んで語り合つたような意表を突く仕掛けは、NHK『タイムスクープ』を彷彿させて愉快でした。

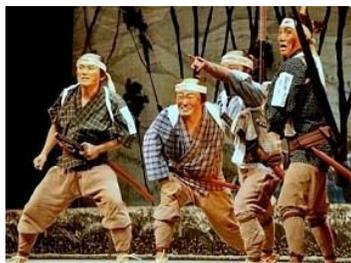
## 演劇ガイド

● **あながいおまの一座『ハウチユウラブ』** 波除のフリースペース「石炭倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しき、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあながいおまの一座による、ネズミが主人公のドラマチック・ミュージカル。「生まれてきて死んでいく 生きものの一生は どれだけ代を重ねても さすげられたその一回限りの命。なにが大切なかを。そんな人間でも生きていこうとしようだ」。ネズミごっしのし烈な縄張り争いから、社会のありよう、人の生きようを浮かび上がらせ、このままではいいのか、それとも何かが間違っているのか、一人ひとりに問いかける。脚本・作詞：中村路子、作曲・編曲：北野隆、演出：あながいおまの。出演はヨシシー原本、梶岡志保、麻倉ケイト、浜本克行ほか。四月十九日(日)十四時、十七時半に石炭倉庫で、四月二十五日(土)十八時、二十六日(日)十三時、十八時半に国立文楽劇場小ホールで、計五回公演。料金は石炭倉庫が前売二千八百円、当日三千三百円、国立文楽劇場が前売二千三百円、当日三千八百円(子供・

団体割引あり)。問い合わせ・申し込みは石炭倉庫(波除六・五・一八、JR弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安芸川堤防突き当たり右すべ。〇六五八一・〇六八四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九へ。〈読書プレゼントあり

● **劇団はぐのま座『動けば雷電の如く 高杉晋作と明治維新革命』** 勤労人民の立場に立った演劇活動が続けてきた同劇団の最新作。安政

の開国に抗してせ直しと独立を成し遂げた誇り高き人々を描く。――激動の幕末。日本侵略を狙う欧米列強の圧力に屈服する江戸幕府。長州征伐を前に敗北主義に陥る長州藩俗論派。



→ 四月に上演予定の劇団はぐるま座『動けば雷電の如く 高杉晋作と明治維新革命』から

その中で高杉晋作と救国の志ある農民・商人・藩士らは「奇兵隊」を結成。国のため万民のため、親を捨て子を捨て、民族独立の旗を掲げて僅か七十名で決起する。俗論派を打ち破り、藩論を統一した長州藩は、四方面から千数力で襲いかかる幕府軍を四千余りで迎え撃ち、撃破。遂に明治維新の夜明けを開いた――。「人間の底知れぬ力と歴史の重みを感じた」「日本国民の真の強さと魂を見た」「これからの歴史を作っていくのは僕たちだ」と思った「演技が素晴らしく、背景画が奥行きまでリアルできれいだった」等々、鑑賞した高校生らが感想。主催は大坂公演実行委員会、後援は大阪市教育委員会ほか。四月十九日(日)十四時からクレオ大阪東(城東区、JR・京阪「京橋」駅から南へ、〇六八九六五・二二〇〇)で、二十一日(火)十八時半からクレオ大阪中央(天王寺区、地下鉄「四天王寺」陽ヶ丘駅)②出口から北東へ徒歩三分、〇六七七〇・七一〇〇)で、一般二千五百円(前売二千円)、中高生千八百円(前売千五百円)、小学生千円(前売八百円)。問い合わせは〇六八九五・八三八八(同劇団大阪事務所)へ。〈読書プレゼントあり

# 故郷の話をしよう

福岡県・朝倉町出身

矢野 隆己さん（八幡屋）  
やの たかき



→ 矢野隆己さんの故郷・福岡県朝倉町の春。筑後川横の美しい桜並木には毎年多くの観光客が

八幡屋でパソコントラブルの相談・解決を業務とする「矢野システム研究所」を営む矢野隆己さん（右）、「生まれ育った福岡県朝倉町について、前回まで」「その歴史や風物、さらには大らかな雲田気の幼少期から異性を意識し始めた中学時代まで」を語ってまいりましたが、さて最終回です。

× × × × × × × ×

◆ 思春期の甘酸っぱい経験を聞かせて頂きましたが、中学時代には他にどんな遊びが、

科学少年でもあった私は科学クラブに入り、四球（真空管四本・五球（五本）などの鉱石ラジオや、ヨットなど船の模型づくり）夢中になり、そのパーツを求めて二十キも離れた久留米市まで家の自転車で走ったこともありました。また学校では男女が完全に分けられて授業を受けました。戦後の男女平等社会をききると実に不思議な話ですが、当時は「そんなもの」と当分の前に受け止めていましたね。

◆ それは初耳、都会との違いがもてまかせたね。次に高校時代の思い出を聞かせて下さい。当時、村の中学から高校へ進む者は約半分で、

それがさらに農業・工業・商業・普通へと分かれました。その中で私は普通高校である県立朝倉高へ進んだ訳ですが、家から十キも離れた甘木にあったので、よくやへんマイ自転車を買ってもらい、それで通いました。甘木は朝倉村と違って何でもあり、村人たちがちょっとした買い物に訪れるような町でした。

この高校でもやはり男女は完全に分けられて授業を受けました。生物の教師が面田だったことから生物部に入って「オシベン」メンベの研究などをしましたが、部の連中とつわつわい喋る方が楽しかったのを覚えていきます。

二年生の修学旅行で京都を訪れたのですが、この時の印象があまりに強烈で、「卒業後は絶対京都へ」と心に決めました。それで、京都の大学で一番学費の安かった立命館をめざして、浪の末、競争率五〜六倍だった理工学部（電気科）に入ることができました。とこのように、私の朝倉での生活は、いよいよ終わりを告げます。

◆ 「いよいよ」を除いて小学一年生から約十年間が朝倉暮らしだったのですね。では次に、朝倉を出られてからの歴史をおおまかに

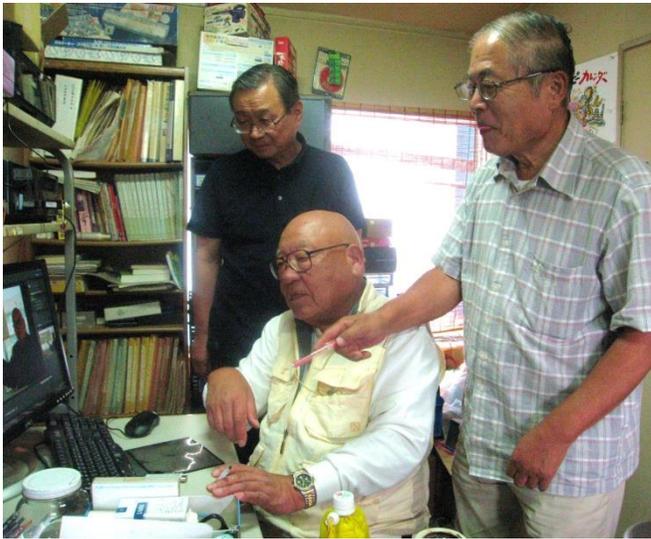
京都ではアメリカ人神父が運営する「マリアの家」という寮に入りましたが、ほどなく父の精米所が倒産したため、やむなく夜間部に移り、寮の修繕をしたり、夏休みや冬休みには信州の白湯温泉の旅館で番頭をしたりして学費や寮費を賄うなど、いろいろな苦学経験もしながら何とか四年で卒業しました。

◆それは大変でしたわ。卒業後は？

就職先は大阪のトヨタ販売店でした。ここで二年ほど働いた後、四十五歳で東京のコンピュータ会社から、いわゆるヘッド・ハンティングされ、その大阪支店で働くことになりました。しかし五年後にあのバブル崩壊があり、当時人事部長だった私は社員をリストラした手前自分も会社を去ることになりました。そうして九二(平成四年)、五十歳にして辿り着いたのが今の矢野システム研究所という訳です、ハイ。

因みに学生時代、白湯温泉で知り合い、遠距離恋愛の末に二十五歳で結ばれたのが、当時千葉県で小学校教師をしていた妻です。とこのことで、現在は大阪府南部の山手で暮らして、子供一人に孫一人。次男が私と同じコンピュータ

←今は八幡屋で矢野システム研究所を営む矢野隆己さん(右)。どんなパソコントラブルにも親切・気軽に対応するのでファンが増えている



関連の仕事に就いています。

◆波瀾とロマンの人生劇場(笑)、あらがやういづれしました。では今、故郷との関わりは？

今の仕事を始めた時に、朝倉高の同窓生名簿から近畿在住八百人ほどのリストを作ったことから、ここが「朝倉高校同窓会・近畿地方本部」

的な性格を帯びるようになり、今では五十人前後が絶えず出入りしています。もちろん小・中学校時代の友人との付き合いも続いています。そんな中で、ここでパソコンを始めた男性がいつの間にかエキスパートになり、教える側になったのには驚き、また嬉しく思いました。

◆時と所を越えて今も続く交流、とても温かく、また私のような郷土育ちは羨ましくも思っています。では最後に、いま矢野さんが故郷・朝倉を感じるのほひとな、うまいこと？

信州・松本が里である妻ともよく話すのですが、やはり故郷は幾つになってもいづれものびず。朝倉にいたのは僅か十年でした。しかし七十余年の人生で悲喜交々色々なことがあった中で、朝倉は途切れることなく私の心の中にありました。何をしても心の半分は朝倉が占め、あとはプラスアルファという感じでした。そしてこれからも朝倉は私とずっと人間の原点である、土台であり、大黒柱であり続けたいと思います。

◆温かな故郷のお話をいくつもありがたういづれしました。これからも遠い故郷を想いながらの港区での末長い活躍を期待しています。

# みなと

## 人生

## 劇

## 場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづいた『当地ドラマ』。シリーズ第八弾は、田中在住の名もなき九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おとし」。

こううんばし そら

# 幸運橋の空 (六)

前編まで 港区のディサービスに通う大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。久美子は一九二二年、浪速区に生まれた。女遊びと賭け事に目が無い父、木下弥太郎は腕の良いベルト職人だったが、久美子の生後間もなく解雇されたのをきっかけに転居を繰り返す。久美子が二年生の時には富田林の実家も喧嘩で飛び出し、羽曳野の賭場に入り浸った。母は目黒十場の賄いで子供たちを守ったが、生まれた妹は栄養不足になった。

### ● 博打場のおかみさんの世話

そのうちロート目黒の工場は機械化されて人手が要らなくなったのが、いつの間にか女工たちが消え、母の仕事もなくなり、再び食べるにも事欠へようになった。父はたまたま賭場から家へやって来たが、そんな時、母が事情を訴えるので、「困ったなあ」と顔を曇らせていた。母は廢品回収で辛うじて子供たちを食べさせながら、恥を忍んで大阪市港区の次兄宅に世話にならざるを得なかった。

ところが、実際「家を出て大鉄の市駅で降り、大阪へ出る前にお父さんとひとりでひとりで野々上の博打場「檜山」を訪ねた時だった。その女将さんが久美子たちに同情し、「私がちゃんとした家を探したげるさかい、しばらくここに居よう。お金はいらんから」と声をかけくれたのだ。母はちよつと考えたが、結局その言葉に甘んじてしまった。

そこは女将さん宅の一角で、八畳と六畳の物置のよつな部屋だった。そこに上敷きを敷いて、久美子たちはその日から住みだすようになった。この家には他にも五〜六家族が世話になっていた。

て、皆で使う共同の井戸があった。

### ● 学校を休み、守りの奉公

その檜山にいた時、「あんたこの子（久美子のこと）しっかりしてるから守りにやれへんか」といつ話がどこから来た。学校を休まなければならぬので母はためらったが、久美子は母を助きたい一心で引き受けた。奉公先は近所の米屋で、給金は一日七十銭だった。

そこに五カ月ほどいた間に、「こんなことがあった。そこには久美子が守りをする赤ちゃんと共に、久美子と同じ歳くらいの女の子もいたのだが、正月になるときれいな着物を着せてもらっていた。久美子は主人から「正月二日は来んでもええで」と言われたが、休める嬉しさよりも、三日間も七十銭がもらえなくなる残念な気持ちの方が強かったのを覚えている。家に戻った久美子に母は言った。「お前は外へ出んとき。正月に着物も着せてやれない久美子を不憫に思ったのだろつ。久美子は母の言う通り、三日間を家から一歩も出ずに過ごした。

またこんなこともあった。臺車駅の待合室で守り（この時は米屋の守り）ではなへ、その

合間に妹の照子を負ぶっていた時だった。をし  
ていた久美子を、喜志尋常小学校の北田先生  
が見つけ、声をかけてくれた。「木下、長いこと  
休んでるなあ。学校へ来いよ」。久美子は学校へ  
行きたくてたまらなかったが、子供にはどうし  
ようもなく、先生の顔を見ただけ顔こころの  
よろほかなかつた。

### ● 大和郡山の昔者置屋へ奉公に

米屋の子守りを終え、再び学校に通い始めた  
久美子に、ある日父が言った。「久美子、お前  
また奉公に出いへんか。近いところがあるか、  
遠いところがあるか。」「ええ、お母ちゃんにきい  
たいから近ところがある。それで久美子は遠  
い金沢「ではな、近い大和郡山」へ奉公に出  
るようになった。今度は本当「すつと」学校行き  
をあまりめなければならぬように思われた。

母は久美子の手を引いて大鉄の喜志駅へ行き  
売店で十銭のお菓子を買っていた。汽車の中  
で久美子は「ななっお母ちゃん」と一緒に喜  
れへんねえ」とばかり喜んでいた。大和郡山  
の繁華街「東岡町」の遊郭「遊郭」があつ  
たが、その軒めした昔者置屋ののちのちの軒

「梅乃家」が久美子の奉公先だった。母はぐ  
らかのお金を前借りして帰って行った。

### ● 辛かった置屋の生活

梅乃家には女主人「お婆さん」だった。の下に  
坂下由太郎といつ四十五歳前後の番頭がいて、八  
人はあつた昔者を仕切っていた。久美子は毎朝  
八時に起き、長ぐい廊下の拭き掃除などを  
した。昔者が夜、料理屋などへ「仕事」に出が  
ける時には、三味線の入った桐の箱「玄関の棚  
に置いてあつた」を持って付いて行った。する  
と昔者は久美子に「一銭」くれた。久美子はそれで  
雁治郎「中」一ナツシの入った透き通つた  
飴「を」八つ買った。久美子はそれが楽しみで、  
喜ぶで付いて行ったのを覚えてゐる。

その置屋には久美子と同じ歳で「ななちゃん」と  
呼ばれてゐる女の子がいた。「飯を炊く時  
はそのななちゃんと一緒に、木屑を粉殻のよう  
に細かくしたものを一つ一つで電へ入れた。  
「飯の時、昔者たちには牛糞大を斜めに切つた  
のが三枚へらら出されたが、久美子たちは出汁  
を取つたための雑魚を食へせられた。昔者た  
ちがおつこつこして食へるのを見て、「あの牛糞大

欲しいなあ」と一人で溜息をつきかつた。とを  
久美子は「お思へば」。

置屋の玄関には風呂屋の番台のような所が  
あつて、番頭の坂下が座っていた。久美子たち  
はその玄関の「置へら」の板の間に並んで座り、  
昔者が出かける時は「おつこつ」と見送り、  
帰ってきた時は「お帰り」と迎えた。昔者たち  
が帰つてくると、彼女たちの持ち物「桐の箱」  
を、ななちゃんといふ久美子がそれぞれの料理屋ま  
で取りに行った。「寒いな」「眠たいな」と震え  
ながら、一人で暗い夜道を急いだ。

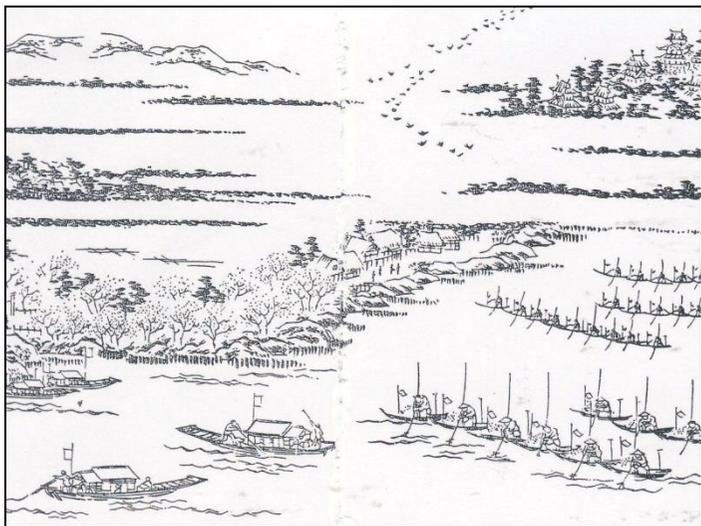
また昔者がまた仕事に出ている夜中の二時  
三時頃、どうしても眠たくなつて、「いびき」  
の居眠りを始めると、坂下が棒切れのような物  
をバシッと投げ付けた。久美子たちはびっけり  
して目を開き、きちんと座り直して昔者の掃  
を待つた。最後の昔者が戻ると夜食が出  
され、そのあと彼女たちは風呂に入つて寝た。  
二カ月ほどして母親が様子を見に来つた。  
二人で外に出、久美子は置屋での辛い生活をあ  
れこれ話して、「つこつこわ」と訴えた。

(ついで)

みつちやんの

港区なるほど歴史ガイド

天保の大川浚



→賑やかな川浚えの様子(天保山名所図会から)

大坂のためやったるで!

江戸末期 官民挙げ熱狂の大工事

「大変やけど、いつちよやったるか!」。江戸時代の終わりに「大坂の町をさびれさせたらアカン」と、今の港区あたりの人々や幕府の役人が力を合わせて超ビッグイベントに挑戦しました。名付けて「天保の大川浚」。

大坂(大阪)を流れる大川(旧淀川)は、古くから飲料・農耕用水として使われてきただけでなく、水運の要として大切な役割を果たしていました。江戸後期になると、長年にわたって上流から運ばれてきた大量の土砂が堆積し、船の運航の妨げとなっていました。

◆「船が通れるよつ」と町民訴え  
やがて文化・文政(一八〇四～一九年の頃)には、「つじた河口付近の土砂の堆積を心配した大坂三郷(大坂市中のことで、北組・南組・天満組の惣年寄(町の有力者)らが「船が通れんよつになつたら、兵庫・尼崎が栄えて、大坂は

寂れてしまつがな」と川浚えの必要性を折にふれて大坂町奉行所に訴えるようになりました。度重なる訴えに、ようやく町奉行所も重い腰を上げ、大坂を治めるトップである大坂城代太田摂津守資始へ申達しました。これを受けて資始は、町奉行らと相談の上、遂に町民の願い出を聞き届け、川浚えを行なうことを決めまし

た。ただし費用の一部は幕府の公金から出すものの、大半は豪家や豪商からの献金で賄い、労働力となる人夫は「なにわの町の世直し事業やから」ということで、町人・職人・近郊の農民に至るまで、大勢の人たちの参加が求められました。ついで天保二(一八三二)年三月、官民挙げての歴史的な大事業が始まったのです。

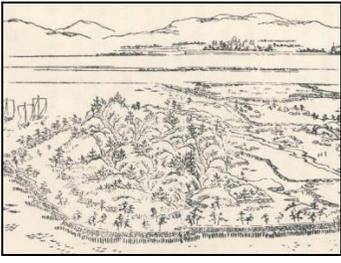
◆そこのユラオーで  
さて、この大工事は、今言った「世直し事業」という趣旨を大坂の人たちが十分に理解していたことから、毎日数百人から千人余りの人夫・人足が各町内から繰り出しました。そこの印半纏(シンボルマークを染めた短い上着)に身を固め、吹き流し(竿の先に帯のような布を何本か付けて風になびくようにしたもの)や

旗を飾り立てた川舟に分乗り、鉦や太鼓で囃しながら川を流したといわれており、まるでお祭り騒ぎを思わせる情景だったといひます。

また、この熱狂的な人夫たちの仕事ぶりをひとで見せつくと、大勢の人たちが繰り出し、さらには、「この見物人を目当てに掛け茶屋（道端に作られた茶店）や屋台が軒を並べるなど、現場一帯は縁日とながらの雑踏ぶりを呈したといわれていまも。

◆土砂は積まれて「目印山」

一いつして大坂釜げでの川浚え工事は翌天保三（一八三〇）年十月、無事完了しました。記



→土砂で造られた天保山。上は『天保山名所図

会 浪華天保山全図』、下は葛飾北斎が描いた

諸国名橋奇覽『摂州安治川口天保山』から

録によると、参加した人夫は延べ十萬一千百余人にのぼったといひます。

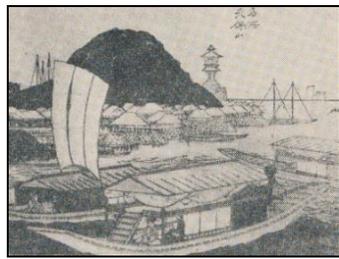
この川浚えされた膨大な量の土砂は、どこへ？ それは河口付近にすく高く積みわれ、高さはおよそ十間（約二十メートル）にもなりました。そして、大坂へ入る船にとっては絶好の目印となつたので、「目印山」あるいは「目標山」とも呼ばれて重宝されましたが、天保年間（一八三〇）頃から、世間一般では「天保山」と呼ぶようになり、この名が平成の現在まで続いています。

やがて人々は、ここに松、桜などの樹木を植え、茶亭（茶店）なども設けられ、春は花見、夏は夕涼み、冬は雪見など、「なごみの新名所」として大いに賑わつたようになりました。

◆夜の船の灯籠も

因みに江戸末期の晩鐘成といひ人は、その著『損津名所図会大成 九ノ上』の中で、この目標山について「安治川口の下海辺にあり、廻船（商船）目印山とす。天保一年御仁慈（お上）幕府の恵みによつて成就（完成）の地なれば、世俗（世間）では天保山とす。山の高を凡そ十間許り、周廻（周）の百間余

←高燈籠も描かれた江戸末期の天保山の風景画  
Ⓚと、高速道路が上を走る現在の天保山Ⓚ



（約）百（び）、島の周廻（せんげん）千（せん）余（よ）千（せん）（約）百（び）、石垣の高さ五間余（約十）、橋十二ヶ所、茶屋・貨倉家などあまたたくとありて、春秋とも賑わし、又高燈籠（背の高い石製の灯り台）を建て、夜走の船の目あてとす……」と紹介していますが、ここにある「高燈籠」は、川浚えが終わつた四年後、天保七（一八三六）年十一月に建てられました。

※参考図書『港区誌』（昭和二十一年発行）、『天保山名所図会』（大阪市立中央図書館蔵）、『大坂の庭園 太閤の城と町人文化』（飛田 範夫 著）

← 小西 典 港区田中在住の郷土史研究家

# 平和のため

# 戦争体験

## 語り継ごう

すぎはら あなこ  
杉原麻子さん(九四) 南市岡在住 ⑧



前年まで 一九一〇年香川県に生まれ、中国での戦火拡大の中、看護学校から赤十字病院へ進んだ。二十歳で結婚し、満州の新京へ。不自由な生活を送ったが、四五年八月、ソ連参戦で北朝鮮へ疎開のあと再び新京へ。しかし我

が家は略奪され、難民収容所は地獄の光景。一方、戦地の夫はシベリア送り列車から脱出し、奇跡の再会を果たした。酷寒の病院で長女出産。引越先で二家族の共同生活が始まったが強盗に一切を奪われた。四八年一月にソ連は引き揚げたが中国内戦が勃発。飢えと寒さと戦火に耐え抜いた七月初め、遂に帰国の知らせが。

## 待ちに待った引き揚げ

### 新たな悲劇乗せ 貨車は走る

待ちに待った引き揚げ！ 思えば一九四一(昭和十八)年五月、希望に胸を膨らませて新京駅に降り立った時、誰がこの惨めな姿を想像できたでしょう。身の回りの僅かな品をまとめた袋から、新婚生活に始まる満州での数々の思い出が走馬灯のように頭の中を駆け巡りました。

#### ◆ 無蓋貨車に詰め込まれ

一九四八(昭和二十三年)八月二十一日。引き揚げ列車に乗る込みました。「よいよいまで頑張ったんだね」とこの感慨が苦しいほどに込み上げ、嬉しさを通り越して、半ば放心状

←満州からの引き揚げルート例(図は延吉から新京を経て佐世保港に上陸するコース。私たちは博多港に上陸した)



態だったのを覚えていました。

貨車は予想していたよりも「無蓋(屋根なし)でした。まるで牛馬のように立ったまま押し込まれ、身動もできません。私は赤ん坊を背におしめ袋を前にぶら下げた格好でした。それでも今度(今回)は夫と一緒に心強く、「どんな困難にも堪えられる」と思いました。

貨車には夏の太陽がじりじりと照り付け、まさに灼熱地獄。雨が降ると傍の人の傘の滴が

体を伝い、濡れても着替えることもできず、それが太陽の熱でまた乾ぎ〜といった夏の日でした。

◆「女差し出せ」と運転手が

途中、見渡す限りの満洲平野の只中で、汽車を運行していた中国人が突然、「女を出さねはこれ以上は走れない」と難題を吹き掛けたことがありました。皆の顔を動揺が走る中、「素人の娘さんでは可哀想。私が参ります」と水筒売らしい一人の女性が自分を差し出されました。「こまでききて、なほ、こんな目」。同じ女性として胸が張り裂ける思いでした。

一方、既に十月月の長女は口焼けで顔が真っ黒になり、髪の毛は赤く縮れ、目だけがぎよるぎよる光っていました。何も出ない乳首を口に含み、恨めしそうに私を見上げてなかなか離れてくれません。ひどい栄養失調でした。

◆ 錦州から最終地、「コロ島」へ

やがて錦州下車。その元関東東軍兵舎跡の馬小屋で一週間は待機させられました。この間に病人が出る、帰国が遅れる、とことごとくでしたが、幸い伝染病も発生せず、出発する日ができました。次はいよいよ大陸最後の

↑コロ島から船に乗り込む人達(四六年夏)



地、「コロ島」です。貨車は錦州からなごに南へ六十四キロ走り、草がぼつぼつと茂る平原の真ん中で停まりました。「ここが臨時に造られたという終着駅でした。

降りた時は夜、おまけに雨がしとしと降っていました。荒野を切り開いて作ったよつな道の両側には鉄条網が張り巡らされ、暗闇の中で

先行く人の足元を見詰めるながら、遅れまいと必死で付いて行きました。随分と歩いて収容所へ入った時はほっとして、疲れがどっつと出、動けなくなっていました。あとで知ったことですが、この時、ここで俳優の森繁久彌さんが引き揚げ者のため、奉仕されていたそうです。

◆ 万感の乗船

新京で貨車に乗り込んでから十日目の八月三十一日。岸壁では、元日本海軍の駆逐艦「雷風」が引き揚げ船として私たちを待っていていました。戦争中はさぞ活躍されたであろう雄姿が想像され、こんな形で使われることに複雑な思いが込み上げました。その乗組員が作詩・作曲したという歌で私たちを迎えて下さったのです。

「皆んな長々と苦労を〜ん 迎えに来ました雪風が〜」。同胞への思いに溢れた演奏に導かれ、タラップを踏みしめる私たち。その時の気持ちばかりでも言葉に表わせません。「あゝ祖国日本へ帰れるー」万感胸に迫り、頬を伝った涙。それまでの不安や苦しさを悔いながら一度に吹き飛び、軍隊の人たちが、まるで神の使者のように見えました。(つづ)

# みなとカルチャー

● 港図書館 ① 図書展示「大阪城と日本の名城の本」展＝五月三十一日(日)まで開催中。大坂の陣四百年にちなんだ展示②「三」図書展示「どうぶつだいすき」展＝六月二十日(火)まで開催中。子ども向け③子ども読書の日記念事業「春のいばもも」＝四月二十五日(土)十時半～十一時半に港区民センター「随会議室」松竹」で。出演は絵本の会のみなど。当日先着四十名④おたのしみ会＝毎週水曜日の十五時半～十八時にじゅつたんコーナーで。幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要。四月二十九日(昭和の日)と五月六日(振替休日)は休み⑤あかちゃんのおたのしみ会＝毎月第一金曜日(五月は八日)の十一時～十一時半にじゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよつ工夫。毎週の「おたのしみ会」よりの赤ちゃん向け。申込不要◇☎六五七六・二三四六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホール

ルシリーズV.O.I. 37」クラシックの魅力を再発見するシリーズの二十七回目。「指揮者ユメイのベートーヴェン「グ」」と題し、クラシック界におけるヨーロッパの偉大な伝統の継承者としての地位を確立し、同時に今世紀最高のヴァイオリニストの一人として国際的に高く評価されている関西フィル音楽監督、オーギュスタン・デュメイさんの指揮で、ベートーヴェン



→ 指揮を担当する関西フィル音楽監督オーギュスタン・デュメイさん(©HIKAWA) ⊕ と、チェロ独奏を担当するオーレリアン・パスカルさん(©Aivin) ⊕

ンの最もリズミカルかつ正統回帰の交響曲とされる第七番などを贈る。演奏曲目は、①ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 作品104 ②ベートーヴェン：交響曲第七番「長調」作品92。チェロ独奏は、弱冠十一歳で〇五年の第一回ロストロポヴィチ・ジュニア・コンクール入賞を果たし、「力強さと優雅さを併せ持つ」と絶賛された注目のチェリスト、オーレリアン・パスカルさん。五月十四日(木)十九時からいずみホール(JR環状線「大阪城公園駅」徒歩三分、JR環状線「東西線」京橋駅「南口」徒歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大坂」シネスパーク駅「徒歩五分」で。S席五千円、A席四千円(全席指定・消費税込)。無料託児サービスあり(先着二十名、申込締切四月二十七日)☎六五七七・二三八一。

● 弁天町ORCC200生涯学習センター・弁天シネマ倶楽部『巴里の屋根の下』 「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第八回、通算第二十九回。『巴里の街角、陽気に歌をうたって楽譜を売る青年アルベール。ある日、集まった群衆の中に美

しいルーマニア娘ポーラを見つけて一目惚れ。

しかし、街で幅を利かせる悪漢フレッドもまた彼女に目をつけ、強引に連れて行ってしまつ。

気落ちしたアルバールがその晩、親友のルイとカフェに行くと、なんとそこにはポーラの姿が！声をかけよつとすも、ルイまで彼女に一目惚れしてしまひ。映画が無声からトーキーへと移行していく時代の作品。トーキーなら

ではの歌と音楽。無声映画独特の感情移入を誘う演技。両者の良いところが奇跡の共存を果たした、魅力的なラブ・コメディ。監督はルネ・クレール。出演はアルバール・プレジヤン、ポーラ・イレリ他。一九三〇年、フランス、モノクロ、九六分。五月十八日(土)十時と十四時が



→ 弁天シネマ倶楽部『巴里の屋根の下』から

ら講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。☎六五七七・一四一〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時代

から長年親しまれた人気イベントの再興第十二回、通算第 四四回。四月 十二日(水)十九時二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん

(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南鱗さん(大阪出身の講談師、旭堂南稜門下)

をレギュラーに、今回は笑福亭恭瓶さん(福岡市出身、笑福亭鶴瓶門下)、桂ちぎんさん(松原

市出身、桂さん枝門下)も。先着目 十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同



→ 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家笑

福亭學光さん(上)と講談師・旭堂南鱗さん(下)

←「第二四回オーク弁天寄席」に出演する笑福亭恭瓶さん(上)と桂ちぎんさん(下)



センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四一〇。

● ガレリア・リバリア「井後雅堂展〜十五美学、三十而立〜」 平和の願いをキャンバスに込めて

絵画人生を送ってきた川島惠美子さん(八二八幡屋在住)から絵画を学ぶ井後雅之さん(夕凧在住の小学校教師)による作品展。五月

一日(土)〜五月十日(日)の十一〜十八時に画廊&アトリエ「ガレリア・リバリア」(三先一

三二一八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐ)で。入場無料。☎七五〇二・一四一八。

● ギャラリー「はたなが」展「匿名寄五人展」 絵画を心から愛する個性的なアーティスト五人

(岡田かよ、上月ひとみ、坂井ユウジロー、笹

岡茂彦、モンキー岡田よしたか)によるブルー  
 プ展。四月十八日(木)〜二十八日(日)の十一  
 十九時(二十日)は休み、最終日は十七時ま  
 で。磯路二一〜五港区役所向かい。☎八  
 五七二一五九八七。

●ぎやらしり&かひえ風庵「シャドウボックス  
 作品展」 シャドウボックスは、自分の好みや

部屋の雰囲気合ったプリントやカードの絵柄  
 (四〜八枚)をカットし、順々に貼り重ねて立  
 体感を持たせ、またプリントに丸みを持たせた  
 り影を作ることで豊かな表情と奥行きを演出で  
 きの手工芸。弁天町ORCC200生涯学習セン  
 ターなどで講師として活躍するシャドウア―  
 スタジオ・富田尚子さんのコーディネートで四  
 月十九日(水)まで展示中。「自分だけの空間



→風庵「シャドウボックス作品展」の展示から

をプロデュースできると好評。「風庵」は南  
 市岡二一〜二〇(繁栄商店街内)、☎四九六五  
 一五九八、十時〜十八時開館(日曜定休)。

●ガラスアート・ナカイグループ「生徒作品展

〜光と影〜」 ガラスアートNAOMI(磯路

など同グループの生徒作品を一堂に。二十七回  
 目。ガラスアートは江戸期から伝統の京都手描  
 き友禅手糸自技法を応用して一九八六年に考  
 案された新しい芸術。ガラス特有の透明感・幻  
 想感や技法のシンプルさが人気。五月十四日  
 (木)〜二十四日(日)の十一〜十七時(十九日)休  
 休 最終日十五時までに池田市緑のセンター  
 (阪急池田駅下車、バス停③から五月丘小学校  
 前で下車)まで一階ギャラリーで。入場無料。問  
 い合わせ先は金元(磯路)二丁目、☎八五七六一  
 三四〇。

●ねじやらしりのシャンテ☆カフェ懐かしい

歌にきいも昔も昔を合わせた月例イベント。  
 毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡  
 屋一四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リ  
 クエスト中心に約一時間。歌集賞与。参加費十  
 円(税込)。第十一回は四月二十五日。問い合わ

→過去のねじやらしりのシャンテ☆カフェから



せは「ねじやらし音楽事務所」(弁天四一  
 一〜三〇)☎八五五八・六八八、ht  
 tp://necojyarasai-jimd  
 o.com/または「ゆずのはな会」(☎八五  
 七二一六八四)まで。

●シネ・ヌーヴォ「女優 原節子のすべて」伝

説の女優・原節子のデビュー八十周年を記念し、  
 戦前の初期作品から小津安二郎監督とのコンビ  
 全作品、まだDVD化されていない珍しい出演  
 作など四十数本を四月二十五日(土)〜六月十二  
 日(金)に一挙上映。上映作品は『河内山宗俊』  
 (一九三八年)『新しき土』(一九三七年)『巨人伝』(三  
 八年)『指導物語』(四二年)『ハワイ・マレー沖  
 海戦』(四四年)『安城家の舞踏会』(四七年)『誘

惑』(四八年)『お嬢さん乾杯』(四九年)『青い山脈』(四九年)『晩春』(四九年)『白雪先生と子供たち』(五〇年)『白痴』(五一年)『麦秋』(五二年)『めし』(五二年)『東京の恋人』(五一年)『東京物語』(五三年)『山の音』(五四年)『フンちゃん雲に乗る』(五五年)『美しき母』(五五年)『驟雨』(五八年)『愛情の決算』(五八年)『婚約二羽鳥』(五八年)『女囚と共に』(五八年)

『大番シリーズ』(五七・五八)『東京暮色』(五七年)『智恵子抄』(五七年)『最後の脱走』(五七年)『女である』(五八年)『東京の休日』(五八年)『女ごころ』(五九年)『日本誕生』(五



→原が一躍スターダムにのし上がった日独合作『新しき土』(上)と、理想の女教師と子供たちとの交流を描いた『白雪先生と子供たち』(下)

九年)『路傍の石』(六〇年)『娘・妻・母』(六〇年)『秋日和』(六〇年)『慕情の人』(六一年)『小早川家の秋』(六一年)『娘と私』(六一年)『忠臣蔵花の巻・雪の巻』(六二年)『最終作品』など。当日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館西区九条一・二・三・四地下鉄中央線九条駅⑥出口歩三分 阪神なんば線九条駅②出口歩三分 ☎八五八一・四二六へ。

●ガットネロ市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦田美子さんの主宰の音楽喫茶。毎月多彩な企画<シャンソン百物語第九十二回>四月十九日(祝)十五時から。歌:松浦田美子、ピアノ:藤田稔。参加費 千五百円(一飲物付)▽音楽と

朗読による『茶色の朝』と『アンネの夜』六月十一日(日)十四時から兵庫県立芸術文化センター小ホールで。参加費三千円(学生千円)。歌と朗読:松浦田美子。朗読:柏原圭子(朗読劇団あめんぼ座)。他「アルゼンチンタンゴ」ユニット「シンバ」、宮崎剛アンサンブル合唱団も出演▽天王寺区上本町八・二・三三、地下鉄谷町九丁目駅①出口、☎八七六七・〇〇二一。

ひとくち伝言板

●インク差し上げます 不要になったかなりの大量のBCI-9PPBK(顔料ブラック)、BCI-9PBK(フリンク)、BCI-7eC(シアン)、同M(マゼンタ)、同Y(イエロー)を無料で。全て「キヤノン・x5000」に対応。☎八五七一・四六三六港新聞。

読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント名を書いて十日必着で港新聞へ。

- 関四フィル「いずみホールシリーズvol.37」(みなとカルチャー)招待券をへア一組に。
- 弁天町ORC200生涯学習センター「オー弁天寄席」(ミニ文化案内)招待券をへア一組に。
- 弁天町ORC200生涯学習センター・弁天シネマ倶楽部「巴里の屋根の下」(ミニ文化案内)招待券をへア一組に。
- あんがいおまる一座「ハウチュウラブ」(演劇ガイド)招待券をへア三組に(日時指定)。
- 劇団はるまき座『動けば雷電の如く』(演劇ガイド)招待券をへア一組に(日時指定)。

# ひとくちPR

(二行≒税込二〇〇〇円)

## ●新しい作業所でお仕事しませんか 障害者

手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。二十名。就労支援B型作業所・相談支援事業所 わたはの夕風 一〇八二〇サンプートハイム夕風二階 TEL六五七六〇一〇〇、FAX六五七六〇一〇三。

## ●介護のことはお任せ

①介護や老いの相談に乗ります②介護の手続きを代行します③デイサービスは送迎付きで入浴・食事・手芸・ゲーム・テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操おやつなどを楽しまします④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと共同ケアセンター(南市岡三・六二六、六六五八二・四八八〇、FAX六五八三二二二)。

## ●新しい脳科学があなたの脳を活性化

見直される効用。そのばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生かせる力」「学び力」も強めよう。森友総合教室 **検査** (夕風 一〇一三二七三津神社西側 六六五七〇一六八七七)。

## ●新しい学びの世界へ！ チーム学習でよう

て「全員がでてる」をのびのび画期的な学習スタイル。小一〜高三。月謝は週一回で実質六千円。NPOが運営。問い合わせはメールで「学びのひろ

クール 繁栄商店街」(info.ubiquitous.adv@gmail.com)へ。

## ●ピアノははじめませんか 大きい人も小さい人も初歩から楽しくレッスン。

六六五七四一三 四三三 東條和恵 (機器一〇一)。

## ●生涯学習をサポートします 音楽・絵画・健康体操・ダンス・川柳・書道・フラワーアレンジメント・語学・茶道・手芸などの学びを応援。研修・会議・イベント利用もOK。弁天町ORCC200

生涯学習センター(弁天一・二二七〇〇)地下鉄・JR弁天町直結 六六五七七二一四一〇)。

## ●放課後・春夏冬休みは児童保育へ 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三

四西原か 六六五七一六八四三のびのび児童。 ● 児童保育で放課後・春夏冬休みを 指導員が

安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。入所見募集。体験可。六六五七五〇三三五ありんこ。

## ●あなたのふとんが生まれ変わる

綿も羽毛

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷ふとん)二万円。理想のまへら

ぐり、フライダルふとん選びも任せ。お手入れアドバイス・無料診断実施中。ふとん館ひらのや(南市岡三二二八 繁栄商店街東入口フ

## ●ボクササイズでシェイプアップ 女性も小中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。

月会費八千円(無期限十枚)のチケット八千円。入会金二万円を月今半額。練習日は月・水の十九時半〜二十一時半。港水くわくジム (三先一・三一九 http://ameblo.jp/jpp/minatogym)

## ●おしゃべり着いっばい 神戸メーカー直送お

出かけ着から普段着肌着まで。サイズ豊富。プティック・ミニト(八幡屋一・四・八、入舟公園前、大阪信金横、十〜十八時営業 日月定休)。

## ●レンタルフリーボックス 一カ月二〇〇〜

一八〇〇円。鍵付きカラスケース、棚下陳列スペース、ハンガー、足元置きカゴなどの月極レンタルも。コスメハウス ナナイロ(南市岡三二一九 繁栄商店街内 六六五八六一九五)。